

**中部大学
創発学院年報
第 1 卷(2016 年度)**



**ANNUAL REPORTS OF
THE CHUBU UNIVERSITY
ACADEMY OF EMERGING SCIENCES**

年報 Vol. 1 目次

I. 巻頭言（院長 飯吉厚夫）	1
II. 概要	
1. 中部大学創発学術院規程.....	2
2. 施設配置図.....	3
3. 組織.....	5
(1) 組織図	
(2) 職員の内訳	
(3) 職員一覧	
4. 予算概況（研究費）	7
5. 人事異動.....	8
6. 海外渡航.....	9
7. 学術交流協定.....	9
8. 年間スケジュール.....	9
III. 個人の研究教育活動	
1. 研究概要.....	10
(1) 松沢 哲郎（運営委員長・特別招聘教授・コーディネーター）	
(2) 森 重文（特別招聘教授・コーディネーター）	
(3) 山本 尚（兼務教員）	
(4) 安藤 隆穂（兼務教員）	
(5) 福井 弘道（兼務教員）	
(6) 津田 一郎（客員教授）	
(7) 辻本 雅史（客員教授）	
(8) 松林 公蔵（客員教授）	
(9) 長谷川 壽一（客員教授）	
(10) 矢野 誠（客員教授）	
(11) 土井 隆雄（客員教授）	
(12) 幸島 司郎（客員教授）	
(13) 松田 一希（専任教員）	
(14) 桑畑 裕子（専任教員）	
2. 書籍.....	14
3. 学術論文.....	15
4. 学会発表・招待講演.....	21
5. 新聞記事・報道など.....	31
IV. 創発学術院の研究教育活動	
1. 創発セミナー.....	33
2. 学術レクチャー.....	39
V. 社会貢献	
1. 創発シンポジウム.....	40
2. 雑誌モンキーの刊行.....	42

► I . 卷頭言

中部大学創発学術院（英文名：Chubu University Academy of Emerging Sciences、英文略称：CUAES）の年報をお届けします。中部大学は平成26年に開学50周年を迎え、学園として新たな活躍の時代に入りました。新たな試みとして、これまでの「総合大学への道」から「開かれた世界レベルのサステナブル大学」を目指した大学改革を進めています。その一環として、新たに学術の創発を掲げた学内外に開かれた高度な研究の場として「創発学術院」を創設しました。「卓越した研究者を学内外から集めて、既存の領域を超えた、新しい学問の開拓と発信を中部大学からしていきたい」という趣旨です。創設1年ほど前から、京都大学の松沢哲郎教授を介して、山極壽一京都大学総長との間で、中部大学と京都大学の総長間で両大学の間の新しい形の連携を模索しました。それを形にしたものが、この創発学術院です。組織として、京都大学は高等研究院（森重文院長）、そのカウンターパートとして中部大学は創発学術院を、いずれも総長特区として平成28年4月1日付で同時に設置することになりました。6月2日には、本学で開所記念式をおこなうとともに、中部大学創発学術院と京都大学高等研究院のあいだで正式な連携協定書を取り交わしました。

「創発」とは、物理学や生物学などで使われる用語であり、部分の性質の単純な総和にとどまらない特性が、全体として現れるという意味で使われます。自律的な要素が集積し組織化することで、個々のふるまいを凌駕する高度で複雑な秩序やシステムが生じる現象、あるいは状態だともいえます。自律的な要素を、「個々の研究者」とし、高度で複雑な秩序やシステムを、「新しい学術分野」と読み替えてください。創発学術院は、「国際連携および先端萌芽のための高度な研究組織」です。中部大学の不言実行の精神のもと、新たな学術の創発を目指します。卓越した研究者を学内外から集め、既存の学問領域を超えた、新しい学問の開拓と発信をしていきます。

大学という学びの場では、優れた研究こそが最良の教育だといえます。そこで「創発セミナー」を開催し、異なる分野を専攻する学生、研究者間の意見交換の場としています。学内外の有志に自発的に参加してもらうというスタイルのもとで、28年度は4度開催しました。創発学術院は、真に学びたい者が学問の先端に触れ、学問の創発にかかわる機会をつくっていきます。この他にも、創発セミナーに比べより専門性の高い講義をする「学術レクチャー」、学内外に対する目に見える貢献として、「創発シンポジウム」も開催しています。

創発学術院では、私学と国立大学という異なる組織間での学生、研究者の自由な交流ができる基盤整備に力を入れています。国内外の叡智が集結する京都大学高等研究院と連携することで、両機関の強みを相互に強化することを目的に学術交流協定を締結しました。本協定により、研究者および教員の交流、先端萌芽研究および国際連携に関わる情報の交換、共同研究、教育および文化的プログラムの共同実施が可能となりました。この京都大学高等研究院の他にも、現在、国内外の研究機関との連携を強化し、分野横断型の新たな学術の創発をめざすべく活動しています。中部大学の良き伝統を受け継ぎ、さらなる創意工夫を加えて、学内、国内だけにとどまらない国際的な期待に応えるような研究機関になるよう、いっそうの努力をしたいと思います。皆様のご支援をお願いするとともにご意見やご助言を賜れば幸いです。

院長 飯吉 厚夫



II. 概要

1. 中部大学創発学術院規程

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人中部大学管理運営規則第10条第1項の規定に基づき、中部大学創発学術院（以下「学術院」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 学術院は、中部大学の特色及び強みを活かして新たな学術の創発を目指した先端萌芽的な研究を推進することを目的とする。

(学術院長)

第3条 学術院に、学術院長を置く。

2 学術院長は、学術院を代表し、その業務を総括する。

3 学術院長は、理事長が任命する。

(運営委員会)

第4条 学術院に、その運営に関する重要事項を審議するため、学術院運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、総長が定める。

(研究科等の教育への協力)

第5条 学術院は、研究科と協議のうえ、大学院における教育のほか、大学における教育等に協力することができる。

(事務)

第6条 学術院に係る事務は、研究推進事務部の協力を得て、事務室において処理する。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、学術院の組織及び運営に関し必要な事項は、学術院長が定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

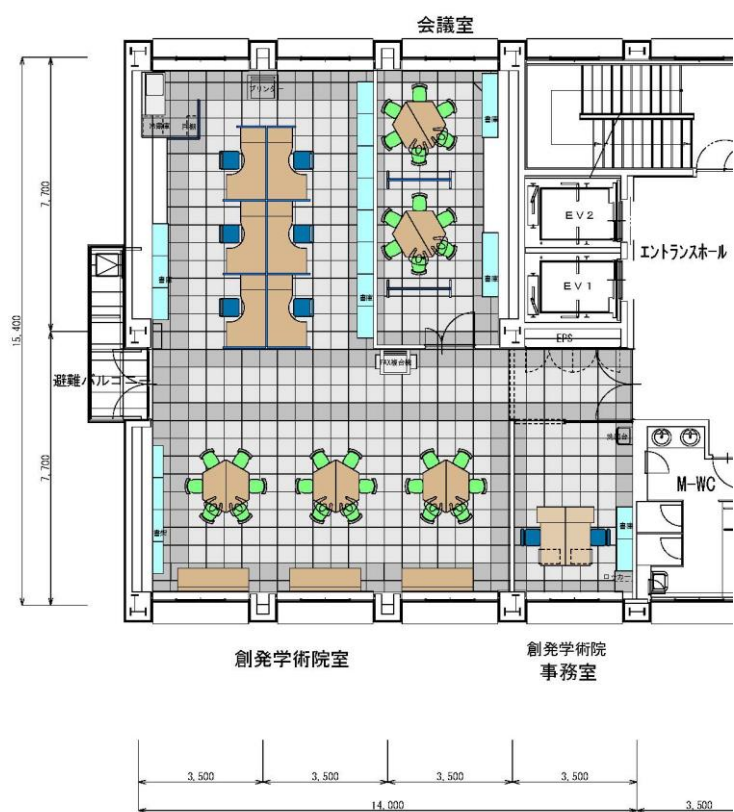
2. 施設配置図

所在地：愛知県春日井市松本町 1200 番地 16 号館 10 階

(16 号館外観)



(キャンパス内地図)



(創発学院の部屋配置図)



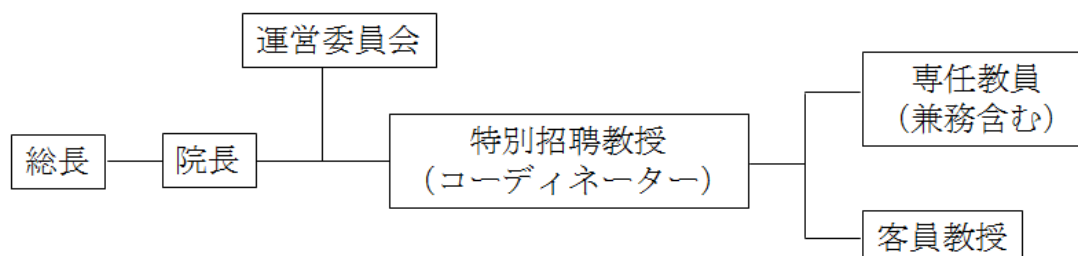
(創発学院オフィスペース)



(創発学院フリースペース)

3. 組織

(1) 組織図（2017年3月31日現在）



院長

飯吉 厚夫（学校法人中部大学理事長、中部大学総長）

運営委員（順不同）

松沢 哲郎（運営委員長、京都大学高等研究院特別教授、中部大学創発学術院特別招聘教授）

森 重文（京都大学高等研究院長 特別教授、中部大学創発学術院特別招聘教授）

石原 修（中部大学副学長、入学センター長、国際センター長）

山本 尚（中部大学総合工学研究所長、分子性触媒研究センター長 教授）

安藤 隆穂（中部大学研究推進機構副機構長 教授）

福井 弘道（中部高等学術研究所長、GIS センター長 教授）

津田 一郎（北海道大学理学研究院数学部門教授、中部大学客員教授）

辻本 雅史（国立台湾大学日本語文学系教授、中部大学客員教授）

松林 公蔵（京都大学東南アジア研究所名誉教授、中部大学客員教授）

長谷川 壽一（東京大学大学院総合文化研究科教授、中部大学客員教授）

矢野 誠（京都大学経済研究所教授、中部大学客員教授）

土井 隆雄（京都大学宇宙総合研究ユニット特定教授、中部大学客員教授）

幸島 司郎（京都大学野生動物研究センター長 教授、中部大学客員教授）

小谷 高秋（学校法人中部大学管財部長）

伊佐治 公浩（学校法人中部大学総務部次長、理事長室次長）

松田 一希（創発学術院准教授）

桑畑 裕子（創発学術院特命助教）

(2) 職員の内訳

准教授	特命助教	特別招聘教授	客員教授	兼務教員	合計
1	1	2	7	4	15

(3) 職員一覧（2017年3月1日現在）

専任教員

松田 一希	准教授
桑畑 裕子	特命助教

兼務教員

飯吉 厚夫	理事長、総長、院長
山本 尚	中部大学総合工学研究所長、分子性触媒研究センター長 教授
安藤 隆穂	中部大学研究推進機構副機構長 教授
福井 弘道	中部高等学術研究所長、GIS センター長 教授

学外教員

松沢 哲郎	特別招聘教授（コーディネーター）
森 重文	特別招聘教授（コーディネーター）
津田 一郎	客員教授
辻本 雅史	客員教授
松林 公蔵	客員教授
長谷川 壽一	客員教授
矢野 誠	客員教授
土井 隆雄	客員教授
幸島 司郎	客員教授

4. 予算概況（研究費）

2016 年度（平成 28 年度）文部科学省・日本学術振興会科学研究費助成事業等
内約一覧（専任教員分のみ）

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
若手研究（A）	松田一希	2,600,000	父系重層社会の解明：テングザル・雄グループの生活史
挑戦的萌芽研究	松田一希	1,685,100	テングザルの前胃内微生物叢の種内変異と適応的意義
研究分担 （基盤 A）	松田一希	900,000	遺伝・形態学的手法を利用したアフリカ産オナガザル科霊長類の採食戦略の解明
研究分担 （基盤 B）	松田一希	400,000	霊長類の食性と腸内細菌との共進化

5. 人事異動

職名	氏名	年月日	内容	備考
院長	飯吉 厚夫	2016/4/1	着任	学校法人中部大学・理事長、中部大学・総長
特別招聘教授	松沢 哲郎	2016/7/1	委嘱採用	創発学術院運営委員長、コーディネーター、京都大学高等研究院・特別教授との兼任
特別招聘教授	森 重文	2016/7/1	委嘱採用	創発学術院コーディネーター、京都大学高等研究院・特別教授との兼任
学内兼任教授	山本 尚	2016/4/1	兼務	中部大学総合工学研究所長、分子触媒研究センター長
学内兼任教授	安藤 隆穂	2016/4/1	兼務	中部大学研究推進機構副機構長
学内兼任教授	福井 弘道	2016/4/1	兼務	中部高等学術研究所長、国際GISセンター長
客員教授	津田 一郎	2016/4/1	委嘱	北海道大学理学研究院数学部門教授との兼任
客員教授	辻本 雅史	2016/12/1	委嘱	国立台湾大学日本語文学系教授、京都大学名誉教授との兼任
客員教授	松林 公蔵	2017/2/1	委嘱	京都大学東南アジア研究所名誉教授・連携教授との兼任
客員教授	長谷川 壽一	2017/2/1	委嘱	東京大学大学院総合文化研究科教授との兼任
客員教授	矢野 誠	2017/2/1	委嘱	京都大学経済研究所教授、附属先端政策分析研究センター長との兼任
客員教授	土井 隆雄	2017/2/1	委嘱	京都大学宇宙総合研究ユニット特定教授との兼任
客員教授	幸島 司郎	2017/2/1	委嘱	京都大学野生動物研究センター長、教授との兼任
准教授	松田 一希	2016/4/1	採用	京都大学霊長類研究所・特定助教より
特命助教	桑畑 裕子	2016/5/1	採用	京都大学霊長類研究所 国際共同先端研究センター・特定研究員より

6. 海外渡航（専任教員分のみ）

氏名	期間	目的国	目的
松田 一希	2016/6/16～6/29	マレーシア	野外調査・研究 連絡
松田 一希	2016/8/22～8/29	アメリカ	国際学会参加
松田 一希	2016/10/24～11/17	マレーシア	野外調査・研究 連絡・国際会議 参加
松田 一希	2017/1/10～1/24	ウガンダ	野外調査
松田 一希	2017/2/12～2/28	マレーシア	野外調査・研究 連絡・国際会議 参加

7. 学術交流協定

締結日	締結機関
2016/6/2	京都大学高等研究院
2016/9/2	京都大学霊長類研究所

8. 年間スケジュール

2016 年

4 月 1 日	創発学術院設立
5 月 18 日	第 1 回運営委員会
6 月 2 日	開所記念式典、開所記念講演会
7 月 4 日	第 2 回運営委員会、第 1 回創発セミナー
9 月 2 日	第 3 回運営委員会、第 2 回創発セミナー
10 月 12 日	ひと・健康・未来シンポジウム
12 月 14 日	第 4 回運営委員会、第 3 回創発セミナー

2017 年

1 月 25 日	第 5 回運営委員会、第 4 回創発セミナー
2 月 15 日	第 1 回学術レクチャー
3 月 6 日	第 6 回運営委員会、第 5 回創発セミナー

▶ Ⅲ. 個人の教育研究活動

1. 研究概要

(1) 松沢 哲郎

チンパンジーとヒトを対象として、比較認知発達研究を総合的におこなった。認知機能の解析として、コンピューター課題や対象操作課題など各種認知課題をおこなった。主として、数系列学習、色と文字の対応、視線の認識、顔の知覚、注意、パターン認識、視覚探索、カテゴリー認識、物理的事象の認識、視聴覚統合、触覚認知、情動認知、運動知覚、行動の同調などの研究をおこなった。加えて、西アフリカ・ギニアのボッソウと、東隣のニンバ山とコートジボワール領内、西隣のディエケの森、南隣のリベリア領内で、野生チンパンジーの行動と生態を調査し、記録の解析をおこなった。また、「緑の回廊」と呼ぶ森林再生研究も継続して実施した。

(2) 森 重文

代数幾何は、代数多様体という代数的な図形を研究する。代数多様体は爆発という操作で酷似した（双有理同値な）代数多様体を幾つでも作ることが出来る。双有理同値なものに共通した性質を研究するのが双有理幾何である。その中心的位置にある極小モデル理論は、与えられた代数多様体に基本的な変換を施し、極小モデルなどの出来るだけ簡単な代数多様体にして研究する。3次元では理論は完成しているが、4次元以上では完全には完成していない。森は、3次元において2次元と同程度に理解できるように、その基本的な変換を具体的に分類する研究を行っている。2016年度はその中でIIA型と呼ばれる変換の分類と具体例の構成を行い一部を出版した。

(3) 山本 尚

0.01 モル%以下の触媒量で、回収可能な、生体に安全な触媒を用い、高い反応性を持ち、同時に完全な立体制御が可能で、炭素骨格を99%以上の光学純度で構築するプロセス開発を目指してきた。言い換えれば、小分子ケムザイム（化学酵素）創成を究極の目標として進めてきた。本年度は、典型金属、遷移金属、あるいは最小のルイス酸であるプロトン（ブレンステッド酸）を用いた触媒設計と、それを用いる不斉合成、特に炭素-炭素不斉合成の新触媒開発を目指し、研究を進めた。既存の酸触媒を鍵とする化学合成は無数である。しかし、必要触媒量は多く、不斉合成も実用的とは言えない。真に有効な分子性酸触媒を開発し、高い反応性と選択性を併せ持つ、分子性酸触媒を設計・合成

し、既存反応の革新に繋がる新反応開発を行った。同時にその不斉触媒で様々な不斉炭素－炭素結合合成を展開した。

(4) 安藤 隆穂

科研費による研究「自由主義と自由の制度化とその相互作用」を中心に研究活動を行った。主に三つの分野で構成され、第一は、「ウェストファリア体制期以降の主権理論の発展と自由主義の成立との関係」について、第二は、「フランス革命期に前後する時期の独仏思想交流と自由主義の成立」について、第三は、「東アジア思想交流における自由と公共」についてが主題である。成果発表としては、「スタール夫人と西欧近代」を課題とする公開研究会(一橋講堂会議室、2017年3月23日)、名古屋大学高等研究院レクチャー「東アジア思想交流史の課題」(名古屋大学、2016年12月15日)、公開研究会「河合栄次郎とその思想」(東京芸術大学、2017年2月24日)などを開催した。また、今年度は出版に至らなかったが、公共圏の思想史を主題とする、二冊の著書の執筆に全力を投入した。

(5) 福井 弘道

地域から地球の多様な空間スケールで持続可能性を追求するには、特定の分野に留まらない学際研究や社会の多様なステークホルダーの連携・協働が不可欠である。デジタルアースは、サイバースペース上に構築される俯瞰型情報基盤、多次元・多解像度で表現された地球であり、持続可能な地球の将来を考えるために、環境・災害等の「問題複合体」を解題する共同実験室、コミュニケーションのプラットフォームとして利用が期待される。今年度もデジタルアースの構築とその活用について研究を行うとともに、創発学術の創成基盤を模索した。

(6) 津田 一郎

脳のダイナミックな活動状態と心の関係に関する数理モデルに対して、拘束条件付き自己組織化理論を提案した。その具体的な応用として、神経回路網ならびにニューロン（神経細胞）の機能分化、構造分化に関する数学モデルを構築することで大脳皮質の機能分化に対する神経機構の解明に向けて一步を踏み出すとともに、ニューロンの起源に対する進化的な理解を深めることができた。さらに、レビー小体型認知症の患者が経験する複合型視覚性幻覚の数理モデルを作り、幻覚の神経機構にアセチルコリンリセプターが関係する可能性を示唆した。また、てんかん患者の脳波データの解析をカオス力学系のテクニックを使って行い、発作時の脳波に低次元力学系の構造が埋め込まれていることを発見した。これにより、てんかん発作の制御可能性が示唆された。

(7) 辻本 雅史

個人研究としては、独自に設定した「知の伝達メディア」という視点から、おもに日本近世の学問・学習の方法論を分析し、近世思想家における「知の作り方」を分析した。なかでも貝原益軒の『和俗童子訓』に見える学習論の分析を行った。さらに益軒の知の発信としての平易な日本語による出版活動に注目し、それを、石田梅岩とその後継の石門心学の、口語話法（声）による「講釈」「心学道話」という知の発信のあり方と比較した。他方、台湾大学日本研究センター執行委員として、日本研究を日本の「外部」から研究することの意義を考察し、それを、日本国内の日本研究とは異なる文脈をもつ「国際日本学」と称し、その理論構築を試み、併せて台湾、韓国、中国など東アジアの学術組織や学会と連携する国際ネットワークの構築に努めた。

(8) 松林 公蔵

約 12 年にわたって長期縦断研究をおこなっている高知県土佐町在住高齢者に関する健康長寿計画を継続した。内容としては、地域在住高齢者の生活習慣病の管理、Activities of Daily Living (ADL)、Quality of Life (QOL) の評価とともに、最近注目されている高齢者の Frailty 調査を実施した。国外研究としては、ブータンの複数地域に若手研究者を派遣して、地域に即した高齢者ヘルスケア・デザインの構築を企画・展開した。約 17 年間継続しているニューギニア（インドネシア・西パプア）に多発する神経難病に関する実態調査を実施して、時代とともに変化する病型の変遷を検討した。

(9) 長谷川 壽一

ヒトおよび動物（ニホンザル、ウマ、カラス）を対象にして以下の研究を行った。ヒトについては、1）自閉症児と定型発達児を対象に、心の知覚と道徳性判断に関する実験研究。2）幼児期における共感と利他性の関係に関する研究。具体的には園児における評価型間接互惠性および最後通牒課題に関する研究。3）自己効力感の神経基盤と動機づけの役割、4）相利的な協働行動による利他行動の促進、動物については、4）ニホンザルの毛づくろいの互惠性とオキシトシン多型に関する研究、5）ウマにおけるヒトの感情表出に対するクロスモーダルな認知、5）ニホンザル幼体の遊びに関する定量的解析、6）ハシブトガラスの性差の発達に関する定量的研究、を行った。

(10) 矢野 誠

本年度は、「市場の質」の経済学の構築に向けて研究を進めるなかで、2008 年夏

に起きた世界金融危機に関して、「市場の質」という観点から新たな分析を行った。この分析を通じ、日米の金融政策の誤り、金利裁定理論の過信、証券格付の誤り、などが互いに連動して、CDS市場の数量バブルを形成したことを明らかにした。CDS市場でのバブルの形成は金融市場における市場の質の低下に起因しているとみることができ、このバブルの崩壊が金融危機の直接の原因となったと考えられる。価格が無制限に上昇する通常のパブル(価格バブル)と比べ、今回のバブルは取引数量が無制限に上昇したことに特徴がある。価格情報と比べると、数量情報の把握は非常に困難であり、そのためバブルの存在の確認が遅れ、極めて大きな金融危機につながったと考えられる。

(11) 土井 隆雄

人類が宇宙に持続的に展開していくための学問「有人宇宙学」の創出をめざし、教育研究活動を実践した。有人宇宙学は、「人間－時間－宇宙」を繋ぐ新しい総合科学であり、時間スケールにより4つの進化過程：宇宙の進化、生命の進化、文明の進化、宇宙開発の進化を規定する。教育活動において、有人宇宙活動のために基礎教育プログラムを構築し、関連する学問の体系化を行った。研究活動として、系外惑星観測システムを京都大学花山天文台に設置し、系外惑星の探査・観測を開始した。また、宇宙における新しい資源としての木材利用の可能性を調べる研究チームを編成した。この研究成果は、宇宙における樹木の生育条件を探る研究へと発展する予定である。

(12) 幸島 司郎

イルカ、アザラシ、ゾウ、バク、シベットなど、様々な野生動物を対象として、その行動と生態、保全に関する研究を総合的におこなった。行動学的研究として、アザラシ類、アジアゾウ、シャチ、バクなどの音声バリエーションを明らかにし、行動との関係解析から各音声の機能を推定する研究や、アマゾンカワイルカの発する超音波を手掛かりに水中行動や環境利用を明らかにする研究をおこなった。生態学的研究としては、ボルネオ島でシベット類の採食生態、オランウータンの個体群密度変動に関する研究を行った。保全研究としては、アマゾンにおいて、絶滅危惧種であるマナティの野生復帰事業と野生復帰個体の行動研究を継続して実施した。加えて、氷河生態系の生物に関する研究も行った。

(13) 松田 一希

2005年より、マレーシアサバ州のスカウ村、アバイ村を拠点とした霊長類（特にテングザル）の長期観察プロジェクトを行っている。本プロジェクトでは、

テングザルの社会生態、採食生態、行動生態の観点から研究を進めている。また、テングザルと同所的に生息している他の昼行性霊長類（オランウータン、テナガザル、カニクイザル、ブタオザル、シルバーラングール）や地上性哺乳類（ヒゲイノシシ、サンバー、マメジカなど）の基礎的な生態・社会の研究も同時に行っている。テングザルでみられる重層社会の内部構造を明らかにするプロジェクトにおいては、遺伝子解析のための糞サンプルの採取が完了し、予備実験を実施する段階まで推し進めることができた。また、霊長類の前胃内、腸内細菌叢と食性の関係性を探る研究についても、遺伝子実験を終了した。また本年度から、テングザルの鼻サイズの性的二型の進化過程を調べるためのプロジェクトを野生と飼育下の個体を対象に開始した。上記の東南アジアでの活動に加え、ウガンダ共和国カリンズ森林保護区に生息する霊長類の研究も実施した。2012年より行っているグレザの生態調査と、対象群の移動範囲内の植物フェノロジー調査を本年も継続して行った。加えて、本種食物選択性（特に葉の選択性）を明らかにするため、葉の栄養分析、強度の測定を行った。

(14) 桑畑裕子

霊長類における母子関係とその発達的变化に関する比較発達科学的研究に取り組んだ。特に、授乳行動とそれが乳幼児の身体的、認知的発達に及ぼす影響に焦点を当てた。2016年度は予備的調査として文献をもとに資料収集をするとともに、関連分野の研究者と綿密な打ち合わせをおこない実現可能な研究計画を策定した。さらに、京都大学霊長類研究所および日本モンキーセンターにて、チンパンジー、マカクザルの母子関係について予備的観察をおこなった。加えて、教育活動の一環として、霊長類の行動学、心理学に興味のある本学学生を募り、京都大学霊長類研究所と日本モンキーセンターにおいて研修をおこなった。

2. 研究業績

(1) 書籍

長谷川寿一 (2016) 動物は正直者かだまし屋か？—動物のコミュニケーションの多様性—。中島平三編 ことばのおもしろ事典, 朝倉書店 pp 194-200.

長谷川寿一, 長谷川真理子 (2017) 伊藤嘉昭先生の思い出. 辻和希編 生態学者・伊藤嘉昭伝 もっとも基礎的なことがもっとも役に立つ, 海游舎 pp 171-176.

津田一郎 (2016) 脳のなかに数学を見る. 共立出版 pp 150.

Tsujimoto M, Yamasaki Y (2017) The History of Education in Japan (1600-2000). Series:

Routledge Studies in Educational History and Development In Asia. Routledge, London & New York pp 176

Tsujimoto M (2017) Introduction, chap.1; Formation and Growth of an Education-Based Society:1600-1868. In: Tsujimoto M, Yamasaki Y (eds) The History of Education in Japan (1600-2000), Routledge, London & New York pp 1-33.

辻本雅史 (2016) 『実験国家』ブータンの挑戦. 杉本均編 ブータン王国の教育変容—近代化と「幸福」のゆくえ—. 岩波書店, 東京 pp 1-7.

辻本雅史 (2016) 日本儒學的政治主體之形成. 潘朝陽主編 政道與治道:儒家的政治觀. 国立台湾師範大学出版中心, 台湾台北 pp 347-361.

辻本雅史 (2016) 道. 米原謙編著 「天皇」から「民主主義」まで—政治概念の歴史的展開 第9巻. 晃洋書房, 京都市 pp 71-94.

辻本雅史 (2016) 貝原益軒和《大学》(中文翻訳:王起). 劉岳兵主編 日本儒学与思想史研究—王家驊先生紀念專輯—. 天津人民出版社, 中国・天津市 pp 62-73.

矢野誠, 古川雄一 (2016) 市場の質と現代経済. 勁草書房 pp 251.

矢野誠, 古川雄一 (2016) 市場の質理論. 矢野誠, 古川雄一編 市場の質と現代経済. 勁草書房 pp 1-7.

矢野誠, 古川雄一 (2016) 発展途上国における市場の質と市場インフラ. 矢野誠, 古川雄一編 市場の質と現代経済. 勁草書房 pp 43-60.

矢野誠, 古川雄一 (2016) 市場の質の経済動学. 矢野誠, 古川雄一編 市場の質と現代経済. 勁草書房 pp 141-150.

(2) 学術論文

Arroyo A, Hirata S, Matsuzawa T, Torre Ide-la (2016) Nut cracking tools used by captive chimpanzees (*Pan troglodytes*) and their comparison with early stone age percussive artefacts from Olduvai Gorge. PLoS ONE 11(11): e0166788. doi: 10.1371/journal.pone.0166788.

Bernard H, Bili R, Matsuda I, Hanya G, Wearn OR, Wong A, Ahmad AH (2016) Species richness and distribution of primates in disturbed and converted forest landscapes in northern Borneo. Tropical Conservation Science 9. doi: 10.1177/1940082916680104.

Bhadra S, Yamamoto H (2016) Catalytic asymmetric synthesis of N-Chiral Amine Oxides. Angewandte Chemie International Edition 55: 13043-13046. doi: 10.1002/anie.201606354.

Bryson-Morrison N, Tzanopoulos J, Matsuzawa T, Humle T (in press) Activity and habitat use of chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) in the anthropogenic landscape

- of Bossou, Guinea, West Africa. *International Journal of Primatology*. doi: 10.1007/s10764-016-9947-4.
- Chang NY, Kimura Y, Ishimoto Y, Wada T, Fukutomi E, Chen WL, Sakamoto R, Fujisawa M, Okumiya K, Matsubayashi K (2016) Relationship between oral dysfunction, physical disability, and depressive mood in community-dwelling elderly adults in Japan. *Journal of the American Geriatrics Society* 64: 1734-1735. doi: 10.1111/jgs.14211.
- Chen W, Fukui H, Doko T, Liu C, Feng Q, Gou P, Shi R (2017) Three glacial lakes (Rongbuk, Karda, Imja) change data at the foot of Mt. Everest, Himalaya. *Journal of Global Change Data and Discovery, Chinese Academy of Sciences*.
- Collerton D, Taylor JP, Tsuda I, Fujii H, Nara S, Aihara K, Katori Y (2016) How can we see things that are not there? Current insights into complex visual hallucinations. *Journal of Consciousness Studies* 23: 195-227.
- Dastidar KG, Yano M (2017) Corruption, market quality and entry deterrence in emerging economies. RIETI Discussion Paper Series 17-E-010.
- 福井弘道, 渡部展也 (2016) 埋蔵文化財の情報基盤. *不動産学会誌* 30: 56-63.
- Gati W, Yamamoto H (2016) Second generation of Aldol reaction. *Accounts of Chemical Research* 49: 1757-1768. doi: 10.1021/acs.accounts.6b00243.
- 原理史, 福井弘道, 岡本肇, 清本三郎 (2017) 当事者の都合を配慮した環境コミュニケーションによる動機付け効果の分析～エコ交通アドバイス活動を例として. *環境共生* 30: 73-80.
- Hirosaki M, Okumiya K, Wada T, Ishine M, Sakamoto R, Ishimoto Y, Kasahara Y, Kimura Y, Fukutomi E, Chen WL, Nakatsuka M, Fujisawa M, Otsuka K, Matsubayashi K (in press) Self-rated health is associated with subsequent functional decline among older adults in Japan. *Geriatrics & Gerontology International*.
- Hockings KJ, Yamakoshi G, Matsuzawa T (in press) Dispersal of a human-cultivated crop by wild chimpanzees (*Pan troglodytes verus*) in a forest-farm matrix. *International Journal of Primatology*. doi: 10.1007/s10764-016-9924-y.
- Honryo T, Yano M (2016) Obscurantism in the Fukushima nuclear accident and a neologism-proof equilibrium. *Market Quality Discussion Series* 2015-0s04, 2016.
- Inoue E, Ogata M, Seino S, Matsuda I (2016) Sex identification and efficient microsatellite genotyping using fecal DNA in proboscis monkeys (*Nasalis larvatus*). *Mammal Study* 41: 141-148. doi: 10.3106/041.041.0304.
- Inoue Y, Kiyonari T, Saito A, Hasegawa T (2016) General trust and preference of universalistic versus parochial partners. *International Journal of Psychology* 51:

1082.

- Iwasaki M, Yoshihara A, Kimura Y, Sato M, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, Fukutomi E, Chen W, Imai H, Fujisawa M, Okumiya K, Taylor GW, Ansai T, Miyazaki H, Matsubayashi K (2016) Longitudinal relationship of severe periodontitis with cognitive decline in older Japanese. *Journal of Periodontal Research* 51: 681-688. doi: 10.1111/jre.12348.
- Iwasaki M, Kimura Y, Ogawa H, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, Fujisawa M, Okumiya K, Ansai T, Miyazaki H, Matsubayashi K (2016) The association between dentition status and sarcopenia in Japanese adults aged ≥ 75 years. *Journal of Oral Rehabilitation* 44: 51-58. doi: 10.1111/joor.12460.
- Konno A, Romero T, Inoue-Murayama M, Saito A, Hasegawa T (2016) Dog breed differences in visual communication with humans. *PLoS ONE* 11: e0164760. doi: org/10.1371/journal.pone.0164760.
- Sakamoto R, Okumiya K, Norboo T, Tsering N, Yamaguchi T, Nose M, Takeda S, Tsukihara T, Ishikawa M, Nakajima S, Wada T, Fujisawa M, Imai H, Ishimoto Y, Kimura Y, Fukutomi E, Chen W, Otsuka K, Matsubayashi K (2017) Sleep quality among elderly high-altitude dwellers in Ladakh. *Psychiatry Research* 49:51-57. doi: 10.1016/j.psychres.2016.12.043.
- Kanamori T, Kuze N, Bernard H, Malim TP, Kohshima S (2017) Fluctuations of population density in Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) related to fruit availability in the Danum Valley, Sabah, Malaysia: a 10-year record including two mast fruitings and three other peak fruitings. *Primates*, 58: 225-235. doi:10.1007/s10329-016-0584-5.
- 松林公蔵 (2017) 豊かな老いを求めて—フィールド医学の現場から—。公益財団法人ひと・健康・未来研究財団、ひと・健康・未来 12: 20-23.
- Matsuda I (2016) Reproducibility of field science in non-human primates. *Japanese Psychological Review* 59:114-117.
- Matsuda I, Otani Y, Bernard H, Wong A, Tuuga A (2016) Primate Survey in a Bornean Flooded Forest: Evaluation of Best Approach and Best Timing. *Mammal Study* 41:101-106. doi: 10.3106/041.041.0201.
- Matsuda I, Clauss M, Tuuga A, Sugau J, Hanya G, Yumoto T, Bernard H, and Hummel J (2017) Factors Affecting Leaf Selection by Foregut-fermenting Proboscis Monkeys: New Insight from in vitro Digestibility and Toughness of Leaves. *Sci Rep* 7:42774. doi: 10.1038/srep42774.
- Matsuda I, Chapman CA, Shi Physilia CY, Mun Sha JC, Clauss M (in press) Primate Resting Postures: Constraints by Foregut Fermentation? *Physiological and*

- Biochemical Zoology. 90:383-391. doi: 10.1086/691360.
- Matsuzawa T (2016) Behavioral and physiological changes in a juvenile Bornean orangutan after a wildlife rescue. *Global Ecology and Conservation* 8:116-122. doi: 10.1016/j.gecco.2016.08.004.
- Matsuzawa T (2016) From four hands to two feet: human evolution in the context of primate evolution. *Primates* 57: 137-139. doi: 10.1007/s10329-016-0527-1.
- Matsuzawa T (2016) Euthanasia is not an option: 10 years' care of a chimpanzee with acute tetraparesis. *Primates* 57: 291-293. doi: 10.1007/s10329-016-0548-9.
- Matsuzawa T (2016) Mountain day: isomorphism of mountaineering and science. *Primates* 57: 441-444. doi: 10.1007/s10329-016-0570-y.
- Matsuzawa T (2017) The Nimba mountains in Guinea. *Primates* 58: 1-3. doi: 10.1007/s10329-016-0591-6.
- Matsuzawa T (in press) The 40th anniversary of the Ai Project: the commemorative gift is a silk scarf painted by Ai the chimpanzee. *Primates*. doi: 10.1007/s10329-017-0604-0.
- Mendonça RS. , Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Bernard H, Matsuzawa T (in press) Development and behavior of wild infant-juvenile East Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*) in Danum Valley. *Primates*. doi: 10.1007/s10329-016-0567-6.
- Mendonça RS. , Takeshita RSC. , Kanamori T, Kuze N, Hayashi M, Kinoshita K, Bernard H, Wilson VAD , Weiss A, Humle T, Morimura N, Udono T, Idani G, Matsuzawa T, Hirata S, Inoue-Murayama M (2016) Chimpanzee personality and the arginine vasopressin receptor 1A genotype. *Behavior Genetics*. doi: 10.1007/s10519-016-9822-2.
- Mizuguchi D, Mitani Y, Kohshima S (2016) Geographically specific underwater vocalizations of ribbon seals (*Histiophoca fasciata*) in the Okhotsk Sea suggest a discrete population. *Marine Mammal Science* 32: 1138-1151. doi: 10.1111/mms.12301.
- Mizuguchi D, Tsunokawa M, Kawamoto M, Kohshima S (2016) Underwater vocalizations and associated behavior in captive ringed seals (*Pusa hispida*). *Polar Biology* 39: 659-669. doi:10.1007/s00300-015-1821-x.
- Mizuguchi D, Tsunokawa M, Kawamoto M, Kohshima S (2016) Sequential calls and associated behavior in captive bearded seals (*Erignathus barbatus*). *The Journal of the Acoustical Society of America* 140: 3238-3238. doi: <http://dx.doi.org/10.1121/1.4970242>.
- Mori S, Prokhorov Y (2016) Threefold Extremal Contractions of Types (IIA). I. *Izvestiya: Mathematics* 80: 884—909. doi: 10.1070/IM8516.

- Murakami T, Segawa T, Dial R, Takeuchi N, Kohshima S, Hongoh Y (2017) Bacterial microbiota associated with the glacier ice worm is dominated by both worm-specific and glacier-derived facultative lineages. *Microbes and Environments* 32: 32-39. doi: 10.1264/jsme2.ME16158.
- Nakabayashi M, Ahmad AH, Kohshima S (2016) Behavioral feeding strategy of frugivorous civets in a Bornean rainforest. *Journal of Mammalogy* 97: 798-805. doi: 10.1093/jmammal/gyw005.
- Nakabayashi M, Ahmad AH, Kohshima S (2017) Fruit selection of a binturong (*Arctictis binturong*) by focal animal sampling in Sabah, Malaysian Borneo. *Mammalia*, 81: 107-110. doi: <https://doi.org/10.1515/mammalia-2015-0009>.
- Nakabayashi M, Ahmad AH, Shiro K (in press) Horizontal habitat preference of three sympatric Paradoxurinae civet species in a small area in Sabah, Malaysian Borneo. *European Journal of Wildlife Research*. doi:10.1007/s10344-016-1062-5.
- Nakashima E, Yamamoto H (2016) Asymmetric aldol synthesis: choice of organocatalyst and conditions. *Chemistry—An Asian Journal* 12: 41-44. doi: 10.1002/asia.201601525.
- Okumiya K, Sakamoto R, Ishimoto Y, Kimura Y, Fukutomi E, Ishikawa M, Suwa K, Imai H, Chen W, Kato E, Nakatsuka M, Kasahara Y, Fujisawa M, Wada T, Wang H, Dai Q, Xu H, Qiao H, Ge RL, Norboo T, Tsering N, Kosaka Y, Nose M, Yamaguchi T, Tsukihara T, Ando K, Inamura T, Takeda S, Ishine M, Otsuka K, Matsubayashi K (2016) Glucose intolerance associated with hypoxia in people living at high altitudes in the Tibetan highland. *BMJ Open* 6(2): e009728. doi: 10.1136/bmjopen-2015-009728.
- 中澤正彦, 矢野誠 (2016) 金融危機後の公開市場操作のポートフォリオリバランス 効果： 買入長期国債の残存期間別データの構築による検証. *Market Quality Discussion Series* 2015-005.
- Okumiya K, Sakamoto R, Ishimoto Y, Kimura Y, Fukutomi E, Ishikawa M, Suwa K, Imai H, Chen WL, Kato E, Nakatsuka M, Kasahara Y, Fujisawa M, Wada T, Wang H, Dai Q, Xu H, Qiao H, Ge Ri-li, Borboo T, Tsering N, Kosaka Y, Nose M, Yamaguchi T, Tsukihara T, Ando K, Inamura T, Takeda S, Ishine M, Otsuka K, Mathsubayashi K (2017) Challenges of field medicine from Japan to the Himalaya model of lifestyle-related diseases. *Himalayan Study Monographs* 18:72-79.
- Ponthip L, Hirromichi F (2016) Toward a web-integrated solution for flood observations. *International Journal of Environmental Science and Development* 7: 134-139. doi: 10.7763/IJESD.2016.V7.755.
- Romero T, Onishi K, Hasegawa T (2016) The role of oxytocin on peaceful associations

- and sociality in mammals. *Behaviour* 153: 1053–1071. doi: 10.1163/1568539X-00003358.
- Romero T, Konno A, Nagasawa M, Hasegawa T (2016) Oxytocin modulates responses to unequal distribution of rewards in dogs. *International Journal of Psychology* 51: 579.
- Sakamoto R, Okumiya K, Norboo T, Tsering N, Wada T, Fujisawa M, Imai H, Nose M, Ishimoto Y, Kimura Y, Fukutomi E, Chen W, Matsubayashi K (2016) Health and happiness among community-dwelling older adults in Domkara valley, Ladakh, India. *Geriatrics & Gerontology International* 17: 480-486. doi: 10.1111/ggi.12745.
- Samanta RC, Yamamoto H (2017) Catalytic asymmetric bromocyclization of polyenes. *Journal of the American Chemical Society* 139: 1460-1463. doi: 10.1021/jacs.6b13193.
- Sugiura A, Aoki R, Murayama K, Yomogida Y, Haji T, Saito A, Hasegawa T, Matsumoto K (2016) Regional gray matter volume in the posterior precuneus is associated with general self-efficacy. *Neuroreport* 27: 1350-1353. doi: 10.1097/WNR.0000000000000702.
- Tsuda I, Yamaguchi Y, Watanabe H (2016) Self-organization with constraints - a mathematical model for functional differentiation. *Entropy* 18, 74. doi:10.3390/e18030074.
- Tsuji H, Yamamoto H (2016) Hydroxy-directed amidation of Carboxylic Acid. Esters using a Tantalum Alkoxide catalyst. *Journal of the American Chemical Society* 138: 14218–14221. doi: 10.1021/jacs.6b09482.
- Tsujimoto M (2016) The corporeality of learning: confucian education in early modern Japan. *Educational Philosophy and Theory* 48: 64-74.
- 辻本雅史 (2016) 貝原益軒和《大学》. *深圳大学学报* 33: 17-23.
- 辻本雅史 (2016) 「国際日本学」研究にむけて－日本の外から日本研究を考える－. *日本思想史研究会会報* 32: 1-4.
- Yamamoto Y, Akamatsu T, Silva VM, Kohshima S (2016) Local habitat use by botoes (Amazon river dolphins, *Inia geoffrensis*) using passive acoustic methods. *Marine Mammal Science* 32: 220-240. doi: 10.1111/mms.12252.
- Yano M (2016) Low and economics on market quality. *RIETI Highlight* 63: 2-6.
- 矢野誠 (2016) 法と経済. *RIETI Highlight* 60: 11.
- 矢野誠 (2016) 市場の質の法と経済学. *RIETI Highlight* 61: 26.
- Zhou F, Yamamoto H (2016) A powerful chiral phosphoric acid catalyst for Enantioselective Mukaiyama–Mannich reactions. *Angewandte Chemie International Edition* 55: 8970-8974. doi: 10.1002/anie.201603929.
- Zhou F, Yamamoto H (2016) A disulfonimide catalyst for highly enantioselective

Mukaiyama-Mannich reaction. Organic Letters 18: 4974-4977. doi: 10.1021/acs.orglett.6b02262.

(3) 学会発表・招待講演

安藤隆穂 (2016)「東アジア思想交流史の課題」 名古屋大学高等研究院レクチャー. 名古屋大学, 名古屋.

Doi T (2016) 「Space Activities and the United Nations Programme on Space Applications」日本地球惑星科学連合大陸海洋相互作用セッション. 幕張メッセ, 千葉.

土井隆雄 (2016) 「宇宙をめざせ-日本の有人宇宙開発」 関西宇宙イニシアチブ. 大阪府立大学, 大阪.

土井隆雄 (2016) 「日本の有人宇宙活動」 宇宙地球惑星科学会・若手会「夏の学校」. 京都大学, 京都.

土井隆雄 (2016) 「国連と宇宙活動」 平成 28 年度宇宙基地医学研究会. 東京慈恵会医科大学, 東京.

土井隆雄 (2016) 「科学が拓く人類の未来」 一般社団法人プラズマ・核融合学会 IAEA 核融合エネルギー会議 学術講演会. 京都大学, 京都.

土井隆雄 (2016) 「宇宙から京都へ、京都から宇宙へ」 京商イブニングセミナー. 京都商工会議所, 京都.

土井隆雄 (2016) 「有人宇宙活動」 TEDx Kyoto University. 京都大学, 京都.

土井隆雄 (2016) 「日本の有人宇宙活動」 京都大学落語会. 京都大学, 京都.

土井隆雄 (2016) 「日本の有人宇宙活動」 同志社大学第 54 回ハリス理化学研究所研究発表会. 同志社大学, 京都.

土井隆雄 (2016) 「日本の有人宇宙活動」 第 2 回宇宙太陽発電学会 シンポジウム. 東京理科大学, 東京.

土井隆雄 (2017) 「有人宇宙学の創出」 京都大学思修館懇話会. 京都大学, 京都.

土井隆雄 (2017) 「有人宇宙学の創出」 ロケット協会 宇宙旅行シンポジウム. 新橋航空会館, 東京.

土井隆雄 (2017) 「有人宇宙学の創出」 京都大学宇宙総合学研究ユニット第 10 回宇宙ユニットシンポジウム. 京都大学, 京都.

土井隆雄 (2017) 「日本の有人宇宙活動」 東京理科大学宇宙教育プログラム閉校式. 東京理科大学, 東京.

土井隆雄 (2017) 「有人宇宙活動のための人材育成について」 京都大学第 23 回大学教育研究フォーラム. 京都大学, 京都.

土井隆雄 (2017) 「有人宇宙学」 京都造形大学第 2 回文明哲学セミナー. 京都大学, 京都.

- Fukui H (2016) GIS and Digital Earth Technologies for Disaster Management. The First Pacific Regional Workshop on Multi-Hazard Risk Assessment and Early Warning Systems by using Space and GIS Applications. Conference Center, Tanoa International Hotel, Nadi, Fiji.
- Fukui H (2016) SDGs Mapping Proposal from Digital Earth Perspective. The First Pacific Regional Workshop on Multi-Hazard Risk Assessment and Early Warning Systems by using Space and GIS Applications. Conference Center, Tanoa International Hotel, Nadi, Fiji.
- Fukui H (2016) Status of ISDE Japan Chapter. ISDE Council Meeting at the 6th Digital Earth Summit. Beijing, China.
- Fukui H (2017) The Digital Earth Era and Unmanned Aircraft Systems (UAS). The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science. 京都大学, 京都.
- Fukui H (2017) GIS and Digital Earth Technologies for Resilient and Sustainable Society Griffith University's Cities Research Institute and QUT. Brisbane, Australia.
- 福井弘道 (2016) 「デジタルアース時代における『地域環境戦略』～デジタルアースによるデータ統合と可視化」 地球環境関西フォーラム 第 93 回都市環境部会. 大阪.
- 福井弘道 (2016) 「Applying Geography Everywhere 多様な問題複合体に GIS プラットフォームで挑む」 第 12 回 GIS コミュニティフォーラム ESRI ジャパンユーザー会. 東京ミッドタウン, 東京.
- 福井弘道 (2016) 「デジタルアースによるデータ統合と可視化」 デジタルアース・デザイン連続シンポジウム第 2 回. 中部大学, 春日井.
- 福井弘道 (2016) 「デジタルアース時代の到来—その背景と意義」 デジタルアース・デザイン連続シンポジウム第 1 回. 中部大学, 春日井.
- 福井弘道 (2016) 「IAIA16 から日本のアセスの今後を考える—SDGs と情報共有の視点から」 第 9 回日本環境共生学会学術大会企画セッション. 立正大学, 東京.
- 福井弘道 (2016) 「山岳 UAV 活用の可能性についてその 2」 北アルプス飛騨川登山道等維持連絡協議会理事会. ホテル穂高, 高山.
- 福井弘道 (2016) 「国際影響評価学会日本大会 IAIA16 からアセスの今後を考える—SDGs と情報共有の視点から」 平成 28 年度環境カウンセラー研修 (中部地区). ウィンクあいち, 名古屋.
- 福井弘道 (2016) 「フロンという教訓から人新世・現代文明が語りかけるもの」 なごや環境大学・共有講座 「環境科学カフェ+」 第 2 回. 一般社団法人環境創造研究センター, 名古屋.
- 福井弘道 (2016) 「地球を取り巻く環境問題—デジタルアースによる見える化」

- 春日井市民環境アカデミー. 中部大学, 春日井.
- 福井弘道 (2017) 「Digital Earth/GIS でひらく Society 5.0」 G 空間セミナー2017 in GIFU. ソフトピアセンタービル, 大垣.
- 福井弘道 (2017) 「デジタルアース (俯瞰型情報基盤による『知の統合』の研究拠点の形成の研究概要」 デジタルアース・デザイン連続シンポジウム第3回. 中部大学, 春日井.
- 福井弘道 (2017) 「リスクコミュニケーションについて」 環境の保全を推進する協定協議会 第1回協定協議会. スカイホール豊田, 豊田.
- 福井弘道 (2017) 「デジタルアース (俯瞰的情報基盤) による知の統合」 スマートインフラ研究会. 積水化学工業(株)大阪本社, 大阪.
- 福井弘道 (2017) 「デジタルアース研究と "Society 5.0"」 第4回創発セミナー. 中部大学, 春日井.
- Hasegawa T (2016) Evolution and origin of human mind: How humans are different from chimpanzees. 日露人文社会フォーラム (モスクワ大学), モスクワ.
- Hasegawa T (2016) Memories of Japanese Primatology: an unofficial and private history. 京都大学霊長類研究所 50 周年記念シンポジウム. 犬山国際観光センター, 犬山.
- 長谷川寿一 (2016) 「共感性とインタラクション研究」 第33回認知科学会. 北海道大学, 札幌.
- 長谷川寿一 (2016) 「心理学の未来に期待する: 発達・進化の視点から: 心の発生と起源、その行方」 追手門学院大学シンポジウム「心理学の未来を拓く」. 追手門学院大手前中・高等学校のホール, 大阪.
- Lauwereyns J, Tsuda I, Kazashi N, Sevilla AL (2016) A dynamic spatial-temporal vector that self-determines the absolute present: Notes from Nishida for consciousness studies. In "Opening up Japanese Philosophy: The Kyoto School and After", Kyushu University, Nishijin Plaza, Fukuoka.
- Limlahapun P, Fukui H (2016) Database Assessment of CMIP5 and Hydrological Models to Determine Flood Risk Areas. 6th Digital Earth Summit. Beijing, China.
- 幸島司郎 (2016) 「見たい! 知りたい! 分きたい! 一氷河から熱帯雨林、ヒマラヤから海中まで」 香川県立土庄高校, 香川.
- 松林公蔵 (2016) 「豊かな老いを求めてーフィールド医学の現場から」 第12回ひと・健康・未来シンポジウム. 中部大学三浦幸平メモリアルホール, 春日井.
- Matsubayashi K (2017) 「Holistic Approach towards Aging Study –Asian Perspective-」 Symposium of National Center for Geriatrics and Gerontology. 名古屋観光ホテル, 名古屋.

- Matsuda I, Abram NK, Stark DJ, Sha JCM, Ancrenaz M, Goossens B, Tuuga A, Kubo T (2016) Demography and conservation of proboscis monkeys (*Nasalis larvatus*) in the lower Kinabatangan, Sabah, Borneo, Malaysia. International Primatological Society Congress. USA, Chicago.
- Matsuda I, Abram NK, Stark DJ, Sha JCM, Ancrenaz M, Goossens B, Tuuga A, Kubo T (2016) Conservation of Proboscis Monkeys in the Lower Kinabatangan, Sabah, Malaysia. 2nd Sabah's Ramsar Conference 2016. Kota Kinabalu, Malaysia.
- Matsuda I, Tuuga A, Goossens B, Nathan S, Stark D, Ramirez D, Sipangkui R, Seino S, Murai T, Sha J, Osman I, Koda T (2017) Proboscis monkeys - the big noses and stomachs of Borneo. International Workshop on Proboscis Monkey Conservation in Sabah 2017. Kota Kinabalu, Malaysia.
- Matsuda I (2017) Proboscis monkey - mysterious monkey in Borneo. International seminar at the Universiti Kebangsaan Malaysia. Bangi, Malaysia.
- Matsuda I, Tuuga A, Goossens B, Nathan S, Stark D, Ramirez D, Sipangkui R, Seino S, Murai T, Sha J, Osman I, Koda T (2017) Larger noses are of important signal to attract females in proboscis monkeys. The 7th International Symposium on Primatology and Wildlife Science, Kyoto, Japan.
- 松田一希 (2016) 「コロブス類の重層社会 ―ヒヒ類と比較して―」 第32回日本霊長類学会 自由集会 鹿児島.
- 松田一希、John Sha、Ismon Osman、Sen Nathan、Danica Stark、Benoit Goossens、Diana Ramirez、村井勲裕、清野悟、香田啓貴 (2016) 「大きな鼻を持つテングザルの雄はモテるのか？」 第32回日本霊長類学会 鹿児島.
- 松田一希 (2016) 「マレーシア・サバ州における長期テングザル研究：森林開発とテングザルの保全」 バイオマス循環利用研究部会 (BRUF) バイオマス循環利用講演会, 福岡.
- 松田一希 (2016) 「ボルネオの熱帯林とテングザルの生態」 東京フォーラム 2016 「ワイルドライフサイエンス」：世界の熱帯林に霊長類を探る. 科学未来館, 東京.
- 松田一希 (2016) 「テングザルの不思議：情熱大陸ウラ話」 特別講演会. 日本モンキーセンター, 犬山.
- 松田一希 (2017) 「コロブス類の消化機構：テングザルの反芻行動などを例に」 京都大学霊長類研究所共同利用研究会「霊長類の食性の進化」. 京都大学霊長類研究所, 犬山.

- 松田一希 (2017) 「テングザルの不思議ーボルネオのジャングルでフィールドワークー」 ボルネオ保全トラストジャパン関西定例会. 大阪.
- Matsuzawa T (2016) The evolutionary origins of human mind viewed from the study of chimpanzees. Conférence - Langage et cognition/primates et équidés (Sorbonne conference on chimpanzees and horses), Paris, France.
- Matsuzawa T (2016) Evolution of human mind viewed from the study of chimpanzees. The 8th Hope meetings, つくば国際会議場, 茨城県つくば市竹園.
- Matsuzawa T (2016) Primatologists in Discussion. The Netherlands meets Japan, Leiden, The Netherlands.
- Matsuzawa T (2016) Language and number in chimpanzees. Lorentz Center Workshop: Tightening the Articulation Between Language and Number, Leiden, The Netherlands.
- Matsuzawa T (2016) The evolutionary origins of human cognitive development: insights from research on chimpanzees. ICN2016 Uruguay, Montevideo, Uruguay.
- Matsuzawa T (2016) INPA, Manaus, Brazil.
- Matsuzawa T (2016) Viewing the Human Mind Through the Study of Chimpanzees Institute of Cognitive and Evolutionary Anthropology, Oxford University, Oxford, UK.
- Matsuzawa T (2016) Primate Archaeology: An Evolutionary Context for the Emergence of Technology, University of Oxford, Oxford, UK.
- Matsuzawa T (2016) ICP2016 国際心理学会 (2016), Yokohama, Japan.
- Matsuzawa T (2016) Chimpanzees in Context - Understanding Chimpanzees IV, Chicago, USA.
- Matsuzawa T (2016) IPS ASP Chicago 2016, Chicago, USA.
- Matsuzawa T (2016) Imagination: Human mind viewed from the study of chimpanzees New Oriental Training School, Yunnan Branch, Yunnan, China.
- Matsuzawa T (2016) Origins of the Human Mind [ONGOING] Open Online Course on edX (Online).
- Matsuzawa T (2016) Origin of the human mind viewed from the study of chimpanzees "Kyoto Lectures in Strasbourg" At Institut de Science et d'Ingénierie Supramoléculaires (ISIS), Strasbourg, France.
- Matsuzawa T (2016) Strasbourg day of monkey 25 years, Strasbourg, France.
- Matsuzawa T (2017) Numerical abilities of chimpanzees "The origins of numerical abilities." The Royal Society, London. London, UK.
- Matsuzawa T (2017) Numerical abilities of chimpanzees "The origins of numerical abilities: the future." Kavli Royal Society Centre, The Royal Society at Chicheley

- Hall, Buckinghamshire, UK.
- Matsuzawa T (2017) Evolution of human mind viewed from the study of chimpanzees
Scottish Primate Research Group. @ The Burn, in Edzell, Scotland.
- Matsuzawa T (2017) SAGA: An attempt to promote the welfare of chimpanzees and other
nonhuman primates in Japan University of Stirling, Scotland.
- Matsuzawa T (2017) Conférence Lusophonie et biodiversité. Musée de l'Homme, Paris,
France.
- Matsuzawa T (2017) Human mind viewed from the study of chimpanzees "Evolution of
the brain" Fondation Ipsen, Paris.
- 松沢哲郎 (2016) シカゴ日本商工会議所, Chicago, USA.
- 松沢哲郎 (2016) 黑猩猩告诉我们, 什么是人类 一席 YiXi, Changsha, China.
- 松沢哲郎 (2016) 黑猩猩告诉我们什么是人 Kunming University of Science and
Technology, Chengong Campus, Kunming, China.
- 松沢哲郎 (2016) 想像力：从黑猩猩研究看人类思 Yunnan University of Finance and
Economics, Yunnan, China.
- 松沢哲郎 (2016) Imagination: Human mind viewed from the study of chimpanzees (想
像力：从黑猩猩研究看人类的思想) Kunming Institute of Zoology, Yunnan,
China.
- 松沢哲郎 (2016) 犬山中学での講演, 愛知県犬山市.
- 松沢哲郎 (2016) 「想像するちから：分かち合い思いやる心の進化」中部学院大学
公開講座, 岐阜県関市.
- 松沢哲郎 (2016) 犬山中学での講演, 愛知県犬山市.
- 松沢哲郎 (2016) 犬山市・城東中学での講演, 愛知県犬山市.
- 松沢哲郎 (2016) 犬山市・南部中学での講演, 愛知県犬山市.
- 松沢哲郎 (2016) 愛知県立明和高等学校・高大接続事業(講演と JMC 現地実習).
- 松沢哲郎 (2016) 「想像するちから：チンパンジーが教えてくれた人間の心.
Imagination: Human mind viewed from the study of chimpanzees」盛和スカラ
ーズサエティ. グランドプリンスホテル京都, 京都府京都市.
- 松沢哲郎 (2016) 中部生産性本部 60 周年記念, ウェスティン名古屋キャッスル,
名古屋.
- 松沢哲郎 (2016) 静岡県高等学校等副校長・教頭会, 静岡.
- 松沢哲郎 (2016) 永観堂 浄土宗西山禅林寺派京都布教団, 京都.
- 松沢哲郎 (2016) 学習院大学生命科学シンポジウム, 東京.
- 松沢哲郎 (2016) 人間とは何か：二足歩行、道具、言語、家族の起源を再考する
第 5 3 回法然院夜の森の教室, 京都府京都市左京区.
- 松沢哲郎 (2016) 「チンパンジーが教えてくれた人間の心」中部大学創発学術院

開所記念講演会, 不言実行館 1 階 アクティブホール), 愛知県春日井市.

松沢哲郎 (2016) 日本精神神経学会学術総会, 幕張メッセ, 千葉.

松沢哲郎 (2016) 七社会, 名古屋市.

松沢哲郎 (2016) 第 17 回日本言語聴覚学会. 京都.

松沢哲郎 (2016) 「知の探検 -さまざまなサル類の暮らしから人間を考える-」 中部学院大学公開講座, 岐阜県関市.

松沢哲郎 (2016) 日本神経科学大会 於: パシフィコ横浜.

松沢哲郎 (2016) 鶴岡致道大学. 鶴岡市.

松沢哲郎 (2016) 日本実験動物技術者協会 全国総会, 埼玉県川越市.

松沢哲郎 (2016) 「チンパンジーが教えてくれた人間の老化と幸福」第 12 回ひと・健康・未来シンポジウム 2016 春日井, 中部大学, 愛知県春日井市.

松沢哲郎 (2016) 「にんげんとチンパンジー ありがとう」淳風記念講演会, 京都市立淳風小学校, 京都.

松沢哲郎 (2016) 「想像するちから: チンパンジーが教えてくれた人間の心」全国自治体病院学会, 富山県民会館, 富山.

松沢哲郎 (2016) 「想像するちから: チンパンジーが教えてくれた人間の心」ミニ・レクチャー + ディスカッション 中山人間科学振興財団 創立 25 周年記念シンポジウム, 神田学士会館, 東京.

松沢哲郎 (2016) 心の健康・文化フォーラム, 京都国際会館, 京都.

松沢哲郎 (2016) 想像するちから: チンパンジーが教えてくれた人間の心 京都成人血管病シンポジウム 於: 京都ブライトンホテル, 京都府京都市上京区.

松沢哲郎 (2016) 互いを思いやる: 人間性の霊長類的起源 第 6 回 日本マーモセット研究会大会. 東京大学農学部弥生講堂, 東京都文京区.

松沢哲郎 (2017) 「想像するちから〜チンパンジーが教えてくれた人間の心〜」福山大学教養講座, 広島県福山市.

松沢哲郎 (2017) 「互いを思いやる: 人間性の霊長類的 Caring each other: Primate origins of humanity」 中部学院大学公開講座, 岐阜県.

松沢哲郎 (2017) 愛媛県医師会代行中予ブロック学会 於: 松山市医師会館, 愛媛県松山市

松沢哲郎 (2017) 「想像するちから: チンパンジーが教えてくれた人間の心」 全国科学博物館協議会総会記念講演. 於: 京都鉄道博物館, 京都府京都市.

Mori S (2016) 「Rational Curves on Algebraic Varieties」 Benjamin Peirce Centennial Conference. Harvard University, USA.

Mori S (2016) Rational Curves on Algebraic Varieties. Hitchin 70 Conference. Mathematical Institute, Oxford University, UK.

Mori S (2016) Rational Curves on Algebraic Varieties. 日本数学会秋季総合分科会.

- 関西大学, 吹田.
- Mori S (2016) Rational Curves on Algebraic Varieties. 韓国数学会 70 周年記念コンファレンス. Seoul National University, Korea.
- 森重文 (2016) 「楽しい数学、役に立つ数学」中部大学創発学術院開所記念講演会. 中部大学アクティブホール, 春日井.
- 森重文 (2016) 「数学研究 醍醐味と原動力」第 3 回京都賞シンポジウム. 京都大学, 京都.
- 森重文 (2016) 「数学まなびはじめ」第 28 回愛知サマーセミナー. 東海学園高校, 名古屋.
- 森重文 (2016) 「楽しい数学・役に立つ数学」京大高校生フォーラム in Tokyo. 東京都教職員研修センター, 東京.
- 森重文 (2016) 「代数多様体の分類について」数理と自然のハーモニー. 理化学研究所 鈴木梅太郎記念ホール, 和光.
- Namiki T, Tsuda I (2017) Finding mathematical structures in the brain dynamics: theory and its application. 第 94 回日本生理学会大会, 浜松.
- Sugita S, Fukui H (2016) Development of GIS based Aerial Photo Viewer as a Part of Integrated Disaster Management System. e-ASIA JRP “Disaster Risk Reduction and Management” “Development of Information Gathering and Utilization Systems using small UAV for Disaster Risk Assessment, Monitoring and Response” Kick-off Workshop. 科学技術振興機構, 東京.
- Sugita S, Fukui H (2016) Study of Visualization and Statistical Analysis of High-resolution Precipitation Nowcasts in Japan. 6th Digital Earth Summit, Beijing, China.
- 杉田暁, 竹島喜芳, 福井弘道 (2016) 「UAV-SfM による 3 次元モデリング」2016 秋季 CV ビジネス研究会. 札幌.
- Tsuda I, Self-organization with constraints. 京都大学数理解析研究所共同研究 “Towards Mathematical Model for Self-organization with Constraints” シャトレーゼガトーキングダム札幌, 札幌.
- Tsuda I (2016) A role of skew product transformations in the formation of episodic memories: Finding math in the hippocampus dynamic activity. In “Chaotic Phenomena in Mathematical Models”, Aula Dini, Scuola Normale Superiore, Pisa, Italy.
- Tsuda I (2016) Self-organization with constraints. 京都大学数理解析研究所共同研究, “Toward a New Paradim for Self-Organization: Game Theory with Evolving Rule”, 京都大学数理解析研究所, 京都.
- Tsuda I (2017) Variational principle, hermeneutics and visual hallucinations. In “Brain structure and dynamics in Lewy body disorders with reference to visual

hallucinations”, New Castle University, UK.

Tsuda I (2017) Finding math embedded into brain dynamics as universal mind. 脳と心のメカニズム, 留寿都, 北海道.

津田一郎 (2016)「数学は心である」ネットワークエグゼクティブミーティング: 縁座 4-1 「本来から将来へ: 日本人のいのち・きもち・かたち」、シーガイアコンベンションセンター, 宮崎.

津田一郎 (2016)「心と脳のダイナミクス: 数理科学的理解はどこまで進んだか?」第 6 1 回物性若手夏の学校、シャレードイン志賀, 長野県下高井郡.

津田一郎 (2016)「カオスの数学から読み解く脳と心のダイナミクス—複雑系科学アプローチ」第 1 回中部大学創発学術院セミナー、中部大学創発学術院, 春日井.

津田一郎 (2016)「ネットワーク自己再組織化における機能分化の数理モデル」包括脳シンポジウム 学術総合センター, 東京.

津田一郎 (2016)「創発する心、発達する脳」発達神経科学学会 東京大学, 東京.

辻本雅史 (2016)「江戸儒学と人文精神、東アジア人文精神と日本研究」第 5 回韓国日本学会連合学術大会 嘉泉大学校, 韓国, ソウル市.

辻本雅史 (2016)「日本近世の儒学・漢文学習—素読の意義を考える—」密陽郷学儒林会館韓国, 密陽市.

辻本雅史 (2016)「思想史における知の伝達とそのメディア」韓国日本思想史学会 ソウル大学校日本研究所. 韓国, ソウル市.

辻本雅史 (2016)「教育史研究の『学際化』と『国際化』」教育史学会第 60 回記念大会 国際シンポジウム「教育史研究の新たな船出—教育史研究はどこに向かうべきか」. 横浜国立大学, 横浜市.

辻本雅史 (2016)「知の伝達メディアと思想交流 - 黄俊傑教授の業績に触れて—」名古屋大学高等研究院レクチャー「東アジア思想交流史の課題—黄俊傑先生をお迎えして」. 名古屋大学野依記念学術交流館, 名古屋市.

辻本雅史 (2016)「からだを育てる、感覚を磨く」(公益)前川財団・第 3 回未来教育シンポジウム. 清澄庭園大正記念館, 東京.

辻本雅史 (2016)「親子と地域-子育ての基盤再生に向けて—」(公益)前川財団・第 4 回未来教育シンポジウム. 和敬塾大講堂, 東京.

辻本雅史 (2017)「メディアから見た日本思想史」台中科技大学日本研究中心・ワンアジアフォーラム, 台湾, 台中市.

山本尚 (2016)「分子科学発 分子技術着」分子科学研究所所長招聘会議「化学におけるグローバリゼーション」岡崎コンファレンスセンター二階小会議室, 愛知県岡崎市.

山本尚 (2016)「分子技術—日本発の研究領域」(独)日本学術振興会第 116 委員

- 会 創造機能化学講演会. 学士会館 202 号室, 東京都千代田区.
- 山本尚 (2016) 「不斉触媒酸化反応」平成 28 年度 前期 (春季) 有機合成化学講習会 有機合成化学が生みだす新世界 - 反応開発からもの創りまで. 日本薬学会長井記念館長井記念ホール, 東京都渋谷区.
- 山本尚 (2016) 「『分子技術』～化学から育つ新ディシプリン」京都大学エグゼクティブ・リーダーシップ・プログラム. 京都大学橘会館 (京都市左京区).
- 山本尚 (2016) 「新しい触媒設計」日本化学会九州支部 特別講演会, 九州大学伊都キャンパス IMI オーディトリウム (ウエスト 1 号館 D 棟 4 階 414 号室), 福岡県福岡市.
- 山本尚 (2016) 「明日を開く分子技術」日本化学会九州支部 講演会 in 第 53 回化学関連支部合同九州大会 特別講演 北九州国際会議場 国際会議室, 福岡県北九州市.
- 山本尚 (2016) 「触媒支配の化学合成を目指して」日本プロセス化学会. サマースンポジウム名古屋国際会議場, 愛知県名古屋市.
- 山本尚 (2016) 「Designer Cotalyst for asymmetric Sgnthesis」The Chiral China 2016 (CC2016). 中国科学院化学研究所, 中国.
- 山本尚 (2016) 「破壊的イノベーションとしての触媒化学」京大東京工化会 平成 28 年度第 3 回講演会. 京都大学東京オフィス, 東京都千代田区.
- 山本尚 (2016) 「デザイン型ルイス酸と基質支配の化学反応」高砂香料工業株式会社, 東京都大田区.
- 山本尚 (2016) 「未来を創る有機合成の『匠の技』」日本化学会秋季事業, 第 6 回 CSJ 化学フェスタ 2016. タワーホール船堀, 東京都江戸川区.
- 山本尚 (2016) 「破壊的イノベーションとしての触媒化学」日本工学アカデミー 中部支部設立総会. 名古屋大学減災連携研究センター・減災ホール 減災館 1 階, 愛知県名古屋市.
- 山本尚 (2016) 「Substrate-Controlled Chemical Reaction - Future of Organic Synthesis」International Conference on Organic Synthesis at GDUT. Guangdong University of Technology Higher Education Mega Center, 中国広州市.
- 山本尚 (2016) 「Substrate-Controlled Organic Transformation and Further」四半世紀記念万有シンポジウム - 万有シンポジウムの総括と発展. 東京大学硫黄国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール, 東京都文京区.
- 山本尚 (2016) 「フローを用いる精密有機合成」第 1 回 FlowST シンポジウム. イイノホール&カンファレンスセンター, 東京都千代田区.
- 山本尚 (2017) 「分子が開く破壊的イノベーションの勧め」日本化学会第 97 春季年会. 慶応義塾大学日吉キャンパス, 神奈川県横浜市.
- 矢野誠 (2016) 「市場の質の法と経済学」BBL セミナー. 経済産業研究所, 東京.

矢野誠 (2016) 「市場の質とイノベーション政策」 京都大学経済研究所シンポジウムシリーズⅡ：豊かさを育むエビデンスベース社会の実現に向けて第1回「科学技術とイノベーション政策」．新・都ホテル陽明殿，京都．

矢野誠 (2016) 「豊かさを育むイノベーション政策」京都大学経済研究所シンポジウムシリーズⅡ：豊かさを育むエビデンスベース社会の実現に向けて第1回「科学技術とイノベーション政策」．新・都ホテル陽明殿，京都．

Yano M (2016) *Brexit from the Viewpoint of a Japanese Economist*. RIETI-CEPR. 経済産業研究所，東京．

矢野誠 (2017) 「市場の質とイノベーション政策」京都大学経済研究所シンポジウムシリーズⅡ：豊かさを育むエビデンスベース社会の実現に向けて第2回「文理融合とエビデンスベース・ポリシーの推進」．京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール，京都．

矢野誠 (2017) 「イノベーションにおける文理融合」京都大学経済研究所シンポジウムシリーズⅡ：豊かさを育むエビデンスベース社会の実現に向けて第2回「文理融合とエビデンスベース・ポリシーの推進」．京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール，京都．

(4) 新聞記事・報道など

松林公蔵 (2016) 「“老い”を考える—本邦・アジアでのフィールド医学の現場から」読売新聞朝刊．

松林公蔵 (2016) 「フィールド医学 香北から」高知新聞朝刊．

松林公蔵 (2016) 「松林公蔵さん、松沢哲郎さん：山が教えてくれた科学、京大2教授が語る」毎日新聞朝刊．

松田一希 (2016) 日本テレビ「所さんの目がテン」出演．

松田一希 (2016) 毎日放送「情熱大陸」出演（2016年12月11日）．

松田一希 (2016) 報道記事「テングザル研究者 松田准教授が講演 モンキーセンター」読売新聞

松沢哲郎 (2016) 「カメルーンからギニアへ - 狩猟採集民と野生チンパンジーの暮らしの比較」科学 3月号．

松沢哲郎 (2016) アマゾンの新世界ザル．科学 7月号．

松沢哲郎 (2016) 「日本モンキーセンター創立60周年」科学 12月号．

松沢哲郎 (2016) 「現地調査担う人材育てる」チンパンジーと博士の知の探検，日本経済新聞朝刊 4月3日．

松沢哲郎 (2016) 「体験が学問の形を作る」チンパンジーと博士の知の探検，日本経済新聞朝刊 4月10日．

松沢哲郎 (2016) 「南米で人間の進化考える」チンパンジーと博士の知の探検，

日本経済新聞朝刊 4月17日.
松沢哲郎 (2016)「地震恐れたチンパンジー」 チンパンジーと博士の知の探検,
日本経済新聞朝刊 4月24日.
松沢哲郎 (2016)「母親と息子 一生の強い絆」 チンパンジーと博士の知の探
検, 日本経済新聞朝刊 5月1日.
松沢哲郎 (2016)「外からの目でヒト探る」 チンパンジーと博士の知の探検, 日
本経済新聞朝刊 5月17日.
松沢哲郎 (2016)「人の心 脳の働きで理解」 チンパンジーと博士の知の探検,
日本経済新聞朝刊 5月8日.
松沢哲郎 (2016)「登山と科学研究の共通点」 チンパンジーと博士の知の探検,
日本経済新聞朝刊 5月15日.
松沢哲郎 (2016)「地道な観察 先端研究の礎」 チンパンジーと博士の知の探検,
日本経済新聞朝刊 5月22日.
松沢哲郎 (2016)「チンパンジー介護の10年」 チンパンジーと博士の知の探検,
日本経済新聞朝刊 5月29日.
松沢哲郎 (2017)「子どもの風景」, 道標 ふるさと伝言, 愛媛新聞朝刊 1月8日.
松沢哲郎 (2017)「150年の時を想う」 道標 ふるさと伝言, 愛媛新聞朝刊 2
月12日.
松沢哲郎 (2017)「アイの描いたスカーフ」 道標 ふるさと伝言, 愛媛新聞朝刊
3月19日.
森重文 (2016)「見えない世界に自由を描く 対談 森重文×中村桂子」 生命
誌ジャーナル.
山本尚 (2017) ロジャー・アダムス賞の受賞が決定(授賞式:2017年4月4日・
サンフランシスコ) .
矢野誠 (2016) シンポジウム「科学技術とイノベーション政策」採録記事, 文理
の融合が後押しする新たな社会構造への変革. 日本経済新聞夕刊.
矢野誠 (2016) シンポジウム「文理融合とエビデンスベースポリシーの推進」採
録記事, 政策の有効性を確保する専門分野の知見の集積を. 日本経済新聞
夕刊.

▶ IV. 創発大学院の研究教育活動

創発学術院では、専任教員が中心となって研究教育活動の一環として、創発セミナーと学術レクチャーを開催している。創発セミナーは、異なる分野の研究者間の意見交換の場であり、気軽に意見交換ができる、20-30人程度の小規模なセミナーで、隔月で開催している。今年度は4度開催した。また、学術レクチャーという、創発セミナーよりもより専門性が高く、主に学生への講義スタイルを意識した研究教育活動も開始した。

1. 創発セミナー

第1回 創発セミナー

日時：2016年7月4日（月）15時30分～17時30分

会場：創発学術院（16号館10階）

講師：津田一郎 教授（北海道大学教授、中部大学客員教授）

タイトル：カオスの数学で読み解く脳と心のダイナミクス：複雑系科学からのアプローチ

要旨

物理学は自然現象の本質を物理法則という形で取り出し、宇宙、自然に対する人類の理解を深めるのに貢献してきた。他の自然科学もそれぞれ自然を理解する独自の方法論を提供してきた。経済学・社会学さらに認知科学は人間の行動の集合としての社会現象とそれを支える社会構造を記述することで人間の認知活動への理解を深めるという寄与をしてきた。数学は20世紀前半以降、その内部で自律運動を繰り返すことで独自の発展を遂げてきた。最近では諸分野との連携を強化することで更なる発展が見込まれている。さらにその根本を見れば、数学は人々の欲求（心の動き）を外在化させるための普遍的な表現として歴史に現れたと見ることもできる。私は一般に数学という学問は人の心、それも抽象化された普遍的な心の表現だと理解している。このような観点から、脳のダイナミクスは抽象化され普遍化された心が個々の脳

創
発
セ
ミ
ナ
ー

第1回
カオスの数学で読み解く
脳と心のダイナミクス：
複雑系科学からのアプローチ

日程

7月4日（月）

時間

15時30分～17時

場所

創発学術院（16号館10階）

講師

津田一郎
北海道大学理学研究院数学部門教授
中部大学創発学術院客員教授
専門：複雑系脳科学。
日本でカオス学を確立した第一人者。

参加
自由
(事前申込不要)

創発セミナーとは

また教科書にも載っていないような最先端の学問にふれてみませんか。国内外から講師として迎える世界トップレベルの研究者と、直接語らえるまたとないチャンスです。
学生や教員という立場や、それぞれの分野間の垣根を超えて自由に交流することで、自分をステップアップさせてみたい皆さん、大歓迎です！

お問い合わせ 創発学術院（担当：桑嶋）
MAIL: kuwahata@isc.chubu.ac.jp TEL: 0568-51-1712（内線8825）

という生物学的器官を通過するときに現れる心の痕跡であると考えられるようになった。脳のダイナミクスに埋め込まれた数学を抜き出すことで、脳活動を支配する心の法則を発見することができると考えて研究を進めてきた。本セミナーでは、この心と脳のダイナミックな過程において脳の中に埋め込まれた数学的構造を抜き出す一つの試みを紹介する。私たちは脳を複雑系の典型的な系と捉えてきたので、まずは複雑系科学の歴史を振り返る。次に、脳ダイナミクスのカオス力学系による理解について議論する。脳の病態を解明するための数理科学からの挑戦にも触れたい。

参加者数：45 名

第2回 創発セミナー

日時：2016年9月2日（金）15時30分～17時30分

会場：創発学術院（16号館10階）

講師：山本尚 教授（総合工学研究所、分子性触媒研究センター、創発学術院）

タイトル：破壊的イノベーションとしての触媒化学

要旨

イノベーションは「破壊的イノベーション」と「持続的イノベーション」に分けられる。破壊的イノベーションとは既存の科学技術や社会制度を破壊し、全く新しいシステムに塗り替えることができるイノベーションであり、これによってそれまでの社会の在り方を一変させるものである。昭和後期の我が国勃興期には、こうした日本発の破壊的イノベーションが次々と誕生し全世界に大きな変革をもたらした。例を挙げると、ウオークマンや製鉄技術等である。残念ながら、平成に入ってから、守りに入り、我が国発の破壊的イノベーションは影を潜めた。十分には認知されているとは言えないが、今世紀に入って、当量反応であった化学プロセスは、そのほとんどが触媒反応に塗り替えられている。触媒は化学における典型的な破壊的イノベーションであり、文字通り、触媒は旧来の化学を塗り替えることが可能である。必要な物質量が極端に少なく、また、廃棄物が出ない。さらには省エネルギーとなっているからだ。今、触媒を駆使した化学産業は、さらにフロー・システムを導入し、化学工場の景色までもが一変している。講演ではそうした触媒が起こしつつある世界的な化学イノベーションと、それに対する私たちの試みについてお話しする。

参加者数：35名

創発セミナー

参加
自由
(事前申込不要)

第2回 破壊的イノベーション としての触媒化学

日程	9月2日（金）
時間	15時30分～17時30分
場所	創発学術院（16号館10階）
講師	山本 尚

中部大学総合工学研究所長、
分子性触媒研究センター長、
創発学術院学内兼任教員

専門：有機合成化学・触媒化学
分子性触媒研究の世界的権威

創発セミナーとは

まだ教科書にも載っていないような最先端の学問にふれてみませんか。
国内外から講師として迎える世界トップレベルの研究者と、直接語らえる
またとないチャンスです。
学生や教員という立場や、それぞれの分野間の垣根を超えて自由に
交流することで、自分をステップアップさせてみたい皆さん、大歓迎です！

お問い合わせ 創発学術院（担当：桑畑）
MAIL：kuwahata@isc.chubu.ac.jp TEL：0568-51-1712（内線8825）

第3回 創発セミナー

日時：2016年12月14日（水）15：30～17：00

会場：創発学院（16号館10階）

講師：安藤隆穂 教授（中部大学研究推進機構副機構、中部大学創発学院）

タイトル：公共圏の思想史の樹立をめざして

要旨

「公共圏の思想史」という学問分野の樹立を目指しているものとして、「公共圏」とはそもそもどのようなものかについて、解説したいと思います。「公共圏」という言葉は、近年、ジャーナリズムなどでもよく使われるようになりましたが、まだまだその意味内容が一義的に定着したとはいえません。しかし、市民社会などの用語とともに、今後、ますます、重要な概念となっていくと思います。今回は、まず、次の3点について、お話しします。1. 「公共圏」という概念は、いつ、何故、登場したのか。2. 「公共圏」の原理と構造はどのようなものか。3. 民主主義や市民社会と「公共圏」はどのような関係にあるのか。以上について、専門的研究史をできる限りわかりやすく紹介しながら、説明したいと思います。続いて、「公共圏」の持つ将来的意義について展望しながら、「公共圏の思想史」樹立の必要性について述べさせていただきます。

参加者数：20名

第3回

創発セミナー

参加自由
(事前申込不要)

公共圏の思想史の
樹立をめざして

日程

12月14日（水）

時間

15時30分～17時00分

場所

創発学院（16号館10階）

講師

安藤隆穂

中部大学研究推進機構副機構長
全学共通教育部（全学総合教育部）教授
中部高等学術研究所
創発学院学内兼任教員



要旨

「公共圏の思想史」という学問分野の樹立を目指しているものとして、「公共圏」とはそもそもどのようなものかについて、解説したいと思います。

「公共圏」という言葉は、近年、ジャーナリズムなどでもよく使われるようになりましたが、まだまだその意味内容が一義的に定着したとはいえません。しかし、市民社会などの用語とともに、今後、ますます、重要な概念となっていくと思います。今回は、まず、次の3点について、お話しします。1. 「公共圏」という概念は、いつ、何故、登場したのか。2. 「公共圏」の原理と構造はどのようなものか。3. 民主主義や市民社会と「公共圏」はどのような関係にあるのか。以上について、専門的研究史をできる限りわかりやすく紹介しながら、説明したいと思います。続いて、「公共圏」の持つ将来的意義について展望しながら、「公共圏の思想史」樹立の必要性について述べさせていただきます。

創発セミナーとは

まだ教科書にも載っていないような最先端の学問にふれてみませんか。国内外から講師として迎える世界トップレベルの研究者と、直接話せるまたとないチャンスです。学生や教員という立場や、それぞれの分野間の垣根を超えて自由に交流することで、自分をステップアップさせてみたい皆さん、大歓迎です！

お問い合わせ 創発学院

MAIL：sohatu@isc.chubu.ac.jp TEL：0568-51-1712（内線8825）

第4回 創発セミナー

日時：2017年1月25日（水）15：30～17：00

会場：創発学院（16号館10階）

講師：福井弘道 教授（中部高等学術研究所、国際GISセンター、中部大学創発学院）

タイトル：デジタルアース研究と”Society 5.0”

要旨

情報化社会の本質は、サイバースペースにおける意思決定が、リアルワールドに先導的な役割を果たすことにあるのではないのでしょうか。そこで実物世界のメタファーとして、いかに情報が欠落することなくサイバースペースを構築するか、またそれをどのように利用するかは大きな課題となります。それには「デスクトップメタファー（机上隠喩）」ではなく、膨大な地理空間情報を取り扱い、多解像度で、3次元や時系列の地球を実時間で表現することが可能なツール「アースメタファ」が求められます。これを「デジタルアース」とよんでいます。

デジタルアースで、地球上で生起する自然・社会現象を認知し、地球、国土、地域、都市、地区といったマルチスケールで表現するとともに、その変動現象を分析・解明し、現象のモデリングやシミュレーションを行って、合意形成、計画立案や政策形成に展開する方法論の探求を行う研究領域を、

「GeoInformatics」とよんでいます。デジタルアースは、第5期科学技術基本計画で進める超スマート社会（Society 5.0）のプラットフォームとなりうるものです。この領域の最新の取り組みをいくつか紹介します。

参加者数：21名

第4回 創発セミナー デジタルアース研究と "Society 5.0"

日程	1月25日（水）
時間	15時30分～17時00分
場所	創発学院（16号館10階）
講師	福井弘道 中部大学中部高等学術研究所長 国際GISセンター長 創発学院学内兼任教員
要旨	情報は社会の本質は、サイバースペースにおける意思決定が、リアルワールドに先導的な役割を果たすことにあるのではないのでしょうか。そこで実物世界のメタファーとして、いかに情報が欠落することなくサイバースペースを構築するか、またそれをどのように利用するかは大きな課題となります。それには「デスクトップメタファー（机上隠喩）」ではなく、膨大な地理空間情報を取り扱い、多解像度で、3次元や時系列の地球を実時間で表現することが可能なツール「アースメタファ」が求められます。これを「デジタルアース」とよんでいます。 デジタルアースで、地球上で生起する自然・社会現象を認知し、地球、国土、地域、都市、地区といったマルチスケールで表現するとともに、その変動現象を分析・解明し、現象のモデリングやシミュレーションを行って、合意形成、計画立案や政策形成に展開する方法論の探求を行う研究領域を、「GeoInformatics」とよんでいます。デジタルアースは、第5期科学技術基本計画で進める超スマート社会（Society 5.0）のプラットフォームとなりうるものです。この領域の最新の取り組みをいくつか紹介します。

参加自由

（事前申込不要）

創発セミナーとは

まだ教科書にも載っていないような最先端の学問にふれてみませんか。国内外から講師として迎える世界トップレベルの研究者と、直接話せるまたとないチャンスです。学生や教員という立場や、それぞれの分野間の垣根を超えて自由に交流することで、自分をステップアップさせてみたい皆さん、大歓迎です！

お問い合わせ 創発学院
MAIL : sohatsu@isc.chubu.ac.jp TEL : 0568-51-9520

第5回 創発セミナー

日時：3月6日（月） 15：30～17：00

会場：創発学院（16号館10階）

講師：松田一希（創発学院、中部高等学術研究所、京都大学野生動物研究センター、日本モンキーセンター）

タイトル：テングザル：ボルネオ島のジャングルにすむ不思議なサル

要旨

テングザルは、東南アジアのボルネオ島にすんでいるサルです。名前のとおり天狗のような長い鼻と、大きなお腹が目立つ奇妙なサルです。15メートルもある高さの木から、次々と川に飛び込み泳いで渡る姿は圧巻です。そんなサルを追いかけて12年。森の中では、ゾウやハチに追いかけられたり、調査小屋に戻ってからワニのいる川で水浴びをしたりと色々なことがありました。ボルネオ島のジャングルでの、楽しいけれどちょっと危険なテングザルの調査風景、そして長い鼻と大きなお腹の秘密をお話したいと思います。

参加者数：20名

第5回 テングザル ボルネオ島のジャングルにすむ 不思議なサル

日程 3月6日（月）

時間 15時30分～17時00分

場所 創発学院（16号館10階）

講師 松田一希
創発学院
中部高等学術研究所

要旨 テングザルは、東南アジアのボルネオ島にすんでいるサルです。名前のとおり天狗のような長い鼻と、大きなお腹が目立つ奇妙なサルです。15メートルもある高さの木から、次々と川に飛び込み泳いで渡る姿は圧巻です。そんなサルを追いかけて12年。森の中では、ゾウやハチに追いかけられたり、調査小屋に戻ってからワニのいる川で水浴びをしたりと色々なことがありました。ボルネオ島のジャングルでの、楽しいけれどちょっと危険なテングザルの調査風景、そして長い鼻と大きなお腹の秘密をお話したいと思います。

参加自由
(事前申込不要)

創発セミナーとは
まだ教科書にも載っていないような最先端の学問にふれてみませんか。国内外から講師として迎える世界トップレベルの研究者と、直接話せる。またとないチャンスです。学生や教員という立場や、それぞれの分野間の垣根を超えて自由に交流することで、自分をステップアップさせてみたい皆さん、大歓迎です！
お問い合わせ 創発学院
MAIL : sohatsu@isc.chubu.ac.jp TEL : 0568-51-9520



2. 学術レクチャー

第1回 学術レクチャー

日時：2017年2月15日（水）15：30～17：30

会場：クリエイティブ・ラボ B（中部大学不言実行館5階）

講師：長谷川 寿一 教授生（東京大学総合文化研究科、創発学術院）

タイトル：公認心理師法と日本の心理学の将来

参加者数：54名

学術レクチャー

参加自由
（要事前申込）

主催：中部大学創発学術院

第1回
**公認心理師法と
日本の心理学の将来**

日程 2月15日（水）

時間 15時30分～17時30分

場所 クリエイティブ・ラボB
（不言実行館5階）

講師 **長谷川 寿一**
東京大学大学院総合文化研究科教授
公益社団法人日本心理学会理事長
一般社団法人日本心理学諸学会連合副理事長
創発学術院客員教授

専門：
人間行動進化学，進化心理学，行動生態学

事前のお申込みをお願いいたします
中部大学の教職員・学生の方はどなたでも参加できます

お申込み・お問い合わせ先：創発学術院
MAIL：sohatu@office.chubu.ac.jp
TEL：0568-51-9520（内線8825）


CUAES

▶ V. 社会贡献

1. 創発シンポジウム

創発学術院では、学内外に対する「目に見える」社会貢献として、「創発シンポジウム」を開催している。大規模なものであり、メディア等にも広く周知し、中部大学の学部生をはじめ、教職員や中高生、さらには一般の方々への参加を呼びかけている。今年度は創発シンポジウムを2度開催した。

開所記念講演

日時：2016年6月2日（水）16：00～17：45

会場：不言実行館1階 アクティブホール

開会あいさつ：飯吉厚夫 理事長（総長、創発学術院長）

司会：松田一希 准教授（創発学術院）

講師とテーマ

○森重文 特別教授（京都大学高等研究院、中部大学創発学術院）

「楽しい数学、役に立つ数学」

○松沢哲郎 特別教授（京都大学高等研究院、中部大学創発学術院）

「チンパンジーが教えてくれた人間の心」

参加者数：500名

ひと・健康・未来シンポジウム「老いることの新発見！」

日時：2016年10月12日（水）13：30～16：00

会場：三浦幸平メモリアルホール

主催：公益財団法人ひと・健康・未来研究財団

共催：創発学術院

協力：応用生物学部、生命健康学部

開会あいさつ：飯吉厚夫 理事長（総長、創発学術院長）

司会：松田一希 准教授（創発学術院）

講師とテーマ

○山極壽一 総長（京都大学）

「老いの美しさの秘密を探る」

○松沢哲郎 特別教授（京都大学高等研究院、中部大学創発学術院）

「チンパンジーが教えてくれた人間の老化と幸福」

○中村美穂 客員准教授（京都大学野生動物研究センター）

動画で見るチンパンジーの『老人力』

○松林公蔵 名誉教授（京都大学東南アジア研究所）

豊かな老いを求めて—フィールド医学の現場から—

参加者数：632名

「老いることの新発見！」



参加費 無料

日時 2016年10月12日(水) 13:30～16:00
会場 中部大学 春日キャンパス / 三浦幸平メモリアルホール
13:00受付開始 定員500名

プログラム

老いの美しさの秘密を探る

山極 壽一 / 京都大学 教授

チンパンジーが教えてくれた人間の老化と幸福

松沢 哲郎 / 京都大学霊長部研究員 特別教授
中部大学創発学術院 特別招聘教授 コーディネーター

動画で見るチンパンジーの「老人力」

中村 美穂 / 京都大学野生動物研究センター 客員准教授

昔がな老いを求めてフィールド医学の現場から

松林 公蔵 / 京都大学東洋アジア研究所 名誉教授

参加受付

2016年10月7日(金)までに、氏名(ふりがな)・連絡先を明記の上、FAXまたはE-mailにて下記までお申込み下さい。締切日前でも定員に達した場合はお断りする場合がございます。締切日をお過ごされた場合は、下記事務局までお電話にてお問合せ下さい。

公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団 事務局 (担当: 森田 直子)
TEL&FAX 075-212-1854 E-mail htokenkouninrai@ninh.or.jp



この講座について

中部大学 春日キャンパス

〒487-8601 愛知県春日井市春日井1-20-0番地

本講座の開催は無料となります。公営の施設での開催となります。

<中部大学スタッフよりのご挨拶>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

JRC事務局「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

あり「熊鷹」(ひかりあ)「原直樹」(2016年度)

熊鷹「ひかりあ」原直樹「2016年度」

<JRC事務局からのご挨拶(2016年度)>

主催 / 公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団 共催 / 中部大学創発学術院 協力 / 中部大学理学部 生命健康科学部

Chubu University Academy of Emerging Sciences
中部大学創発学術院
開所記念講演会
平成28年6月2日(木)16:15～17:45
中部大学 木曾美行館1階 アクティブホール 入場無料

第1部 講師 森 重文
楽しい数学
役に立つ数学
前京都大学数理解析研究所教授
1951年/愛知県名古屋市生まれ 京都大学理学部卒 理学博士(京都大学)
1990年/「数学分野のノーベル賞」といわれるフィールズ賞を受賞
1990年/文化功労者
2015年/アジアから初の国際数理学連合会に就任
2016年4月/京都大学数理学研究員の特別教授 中部大学創発学術院コーディネーター

第2部 講師 松沢 哲郎
チンパンジーが
教えてくれた人間の心
前京都大学霊長部研究員特別教授(愛知県大山市)
「アイ・プロジェクト」に参画するチンパンジー(森田やアフリカ)での野外研究で世界的に著名
1990年/愛媛県松山市生まれ 京都大学文学部卒 理学博士(京都大学)
2012年/国際霊長部学会会長に就任
2013年/文化功労者
2016年4月/京都大学数理学研究員の特別教授 中部大学創発学術院コーディネーター

Chubu University Academy of Emerging Sciences
中部大学創発学術院
〒487-8591 愛知県春日井市春日井1-200 中部大学理学部附属事務室 担当/森田 TEL 0565-51-1712 (内線 8225) E-mail kawatani@ac.chubu.ac.jp

2. 雑誌モンキーの刊行

創発学院では、公益財団日本モンキーセンターが発行する雑誌「モンキー」の編集、印刷（中部大学ドキュメントセンター利用）を全面的にサポートした。今年度は1-4号の発行をサポートした。

編集長

伊谷原一（京都大学）

副編集長

友永雅己（京都大学）

編集委員

赤見理恵（日本モンキーセンター）

秋山未来（京都大学）

今井由香（日本モンキーセンター）

江藤彩子（日本モンキーセンター）

大淵希郷（京都大学）

木村直人（日本モンキーセンター）

幸島司郎（京都大学）

齋藤亜矢（京都造形大学）

左海陽子（京都大学）

新宅勇太（日本モンキーセンター）

高野智（日本モンキーセンター）

早川卓志（京都大学）

林美里（京都大学）

平田加奈子（京都大学）

平田聡（京都大学）

松沢哲郎（京都大学、中部大学）

松田一希（中部大学）

湯本貴和（京都大学）

綿貫宏史朗（日本モンキーセンター）

内容

1 巻 1 号 (2016 年 6 月)

巻頭言 (山極壽一)

日本モンキーセンターの改革 (伊谷原一)

霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 (PWS) : 動物園は社会への窓 (左海陽子)

連載「大型類人猿探訪」第 1 回 チンパンジーに魅せられて (林美里)

連載「サルの住む森」第 1 回 熱帯雨林への招待 (松田一希)

連載「ウマ学ことはじめ」第 1 回 ポルトガルの野生ウマ (平田聡)

連載「海外生息地研修」第 1 回 タンザニア・ゴンベ国立公園 (高野智)

連載「環境教育実践」第 1 回 犬山 4 中学校への「出前授業」2 年間の記録 (赤見理恵)

変貌を遂げる野生サルの研究 : ヤクニホンザル、芋焼酎、次世代シークエンサー (阿形清和)

日本モンキーセンターのヤクニホンザル群で観察される文化的行動 (山田将也)

日本モンキーセンターだより

モンキーセンター事務局、サルの生息地へ (安部由里香)

緑のなかで生活するチンパンジー (廣澤麻里)

コンゴ民主共和国での野生ボノボ調査 (新宅勇太)

第 59 回・第 60 回プリマーテス研究会報告 (学術部)

公益財団法人日本モンキーセンターご寄附のお願い

1 巻 2 号 (2016 年 9 月)

巻頭言 (尾池和夫)

霊長類学とわたし・前編 (湯本貴和)

チンパンジー、イルカ、そしてウマからみた世界 (友永雅己)

ジェーン・グドールからのメッセージ (左海陽子)

連載「大型類人猿探訪」第 2 回 野生チンパンジーのすむアフリカへ (林美里)

連載「サルの住む森」第 2 回 いつか戻れる日を夢見て (松田一希)

連載「ウマ学ことはじめ」第 2 回 アルガ山で調査開始 (平田聡)

連載「海外生息地研修」第 2 回 ボルネオ・ダナムバレイ森林保護区 (木村直人)

連載「環境教育実践」第 2 回 「未来の研究者」高校生の体験学習 (赤見理恵)

孤高の王者・野生のユキヒョウに会う (木下こづえ)

地獄谷・小豆島・高崎山のニホンザル (サユリ タケシタ)

日本モンキーセンターだより

大型類人猿情報ネットワークの取り組みとモンキーセンターとの連携（綿貫
宏史郎）

野生から学ぶ未来の動物園（今井由香）

アビシニアコロブスのちょっと変わった子育て（奥村太基）

公益財団法人日本モンキーセンターご寄附のお願い

1 巻3号（2016年12月）

巻頭言（伊谷原一）

霊長類学とわたし・中編（湯本貴和）

アマゾンのフィールドミュージアム・プロジェクト（幸島司郎）

動物園・水族館のキュレーター（博士学芸員）育成（左海陽子）

連載「大型類人猿探訪」第3回 チンパンジーの心を読む（林美里）

連載「サルに住む森」第3回 新たな挑戦（松田一希）

連載「ウマ学ことはじめ」第3回 ウマに名前をつける（平田聡）

連載「海外生息地研修」第3回 アマゾン研修（赤見理恵）

連載「環境教育実践」第3回 大学生による「授業」霊長類学初歩実習の取り組み（川
口ゆり・瀧山拓哉）

アマゾン川でピンクのカワイルカを追う（山本友紀子）

困ったときの友こそ真の友？－金華山のサルとシカ－（大和辻）

日本モンキーセンターだより

園内のデザイン（江藤彩子）

カヌーを利用した新イベントへの挑戦（堀込亮意）

継鹿尾山から見たモンキーセンター（今井由香）

公益財団法人日本モンキーセンターご寄附のお願い

1 巻4号（2017年3月）

巻頭言（松沢哲郎）

霊長類学とわたし・後編（湯本貴和）

連載「ぼくはこうしてゴリラになった」第1回 子ども時代の残像（山極壽一）

連載「自然と芸術」第1回 円山応挙のフィールドノート（齋藤亜矢）

連載「大型類人猿探訪」第4回 アジアにくらすオランウータン（林美里）

連載「サルに住む森」第4回 テングザルへの道のり（松田一希）

連載「ウマ学ことはじめ」第4回 中国でウマに乗る（平田聡）

連載「海外生息地研修」第4回 車でめぐるタンザニア研修（寺尾由美子）

連載「環境教育実践」第4回 猿の字のつくジオサイト（尾池和夫）

霊長類の衛生学：どうやって清潔を保っている？（セシル サラビアン）

キリンの仔育てからみえる母親たちの社会関係（齋藤美保）

山の写真展と講演会：松本市との連携3年間の記録（左海陽子）

公益財団法人日本モンキーセンターご寄附のお願い

頒価 300円(税込)

ISSN 0026-9794

■ 1巻4号 ■ 2017年3月

モンキー

霊長類学からワイルドライフサイエンスへ

協力



中部大学
創発学術院

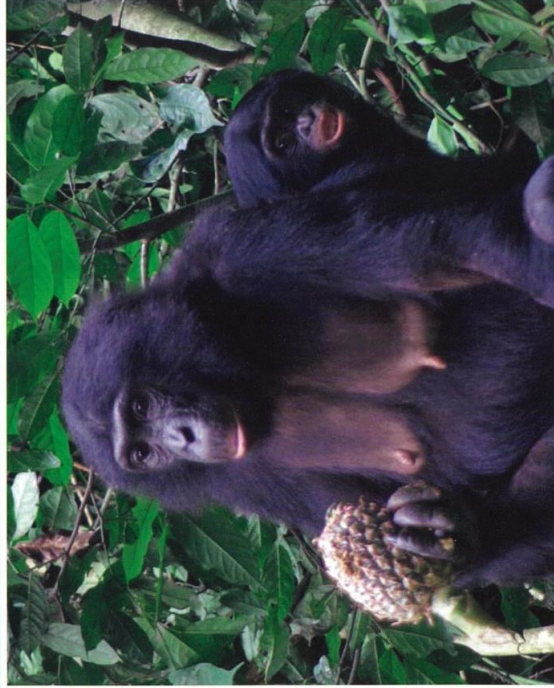


INSTITUTE OF PHILOSOPHY & HUMAN VALUES
文明哲学研究所



協力

京都大学
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
Kyoto University Leading Graduate Program
in Primatology and Wildlife Science



公益財団法人 日本モンキーセンター
JAPAN MONKEY CENTRE

2017 年 4 月 29 日発行

発行者 中部大学創発学術院

〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地 16 号館

TEL: 0568-51-9520

<http://www.cuaes.jp/>

編集 松田一希、桑畑裕子

印刷所 中部大学ドキュメントセンター

〒487-8501 愛知県春日井市松本町 1200 番地 2 号館

TEL: 0568-37-0623

<http://www.chubu.jp/cuservice/print/>